

和仏法律学校講義録

島田, 鐵吉 / 横田, 五郎 / 若槻, 禮次郎 / 松浦, 鎮次郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

9

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

55

(発行年 / Year)

1903-12-01

(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可 毎月十三回二日五日八日
十日十一日十五日十六日廿三日廿五日廿六日廿九日三十日發行)

明治三十六年十二月一日發行

三十六年度 特別法ノ九

和佛法律學校講義錄

第貳百壹號

和佛法律學校



特別法第九號目次

市制 町村制 (百三〇)

法學士 松浦 鎮次郎

現行租稅法論 (百一七)

法學士 若槻 禮次郎

戶籍法 (百二六)

法學士 島田 鐵吉

非訟事件手續法 (百一四)

法學士 横田 五郎

雜報 ○町村收入役ノ事務管理○誤記投票ノ效力

090
1903
5-9

ノ如キハ固ヨリ其中ニ包含セス又一戸ヲ構フルトハ戸主タルト家族タルトニ
論ナク又一軒ノ家屋内ニ一家ノミ居住スル場合ト同一家屋内ニ數家同居スル
場合トヲ問ハス或人カ自己ノ名ヲ以テ一ノ門戸ヲ張ルコトヲ意味スルモノナ
ルカ故ニ單純ニ他人ノ住家ニ寄寓シ又ハ下宿ヲナス等ノ場合ハ其中ニ包含セ
サルモノトス

(四) 二箇年以來(イ)市町村ノ住民トナリ(ロ)市町村ノ經費ヲ負擔シ及(ハ)其市
村内ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルコトヲ要ス市町村ノ經費ヲ負擔ス
(イ)(ロ)ノ事實ハ皆二箇年間引續キ存在スルコトヲ要ス市町村ノ經費ヲ負擔ス
ルトイヒ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルトイフハ唯屬課ヲ受クルノ意味ニ非
スシテ實際之ヲ納付スルコトヲ意味スルモノナリ又此處ニ謂フ所ノ直接國稅
トハ市制町村制ノ規定ニ基キ內務大藏兩大臣ニ於テ定ムル所ニシテ現今ニ於
テハ地租所得稅所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係
ル所得稅ヲ除ク及營業稅ヲ謂フカ市制一三、町村制一三六明治二十一年七
月大藏省告示九十五號(夏)ヲ參照セバ其意ハ明カニ示ス

(五) 市町村ノ公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二箇年ヲ經サル者ニ非サルコト
以上舉タル所ノ要件中二箇年ノ制限ハ市町村會ノ決議ヲ以テスルハ或人ニ對
シ之ヲ特免スルコトヲ得故ニ(四)ノ中(イ)(ロ)ノ事實カ二箇年引續キ存在セザル
場合及公費ノ救助ヲ受ケタル後二箇年ヲ經過セザル場合ニモ他ノ要件ヲ備フ
レハ市町村會ノ決議ニ依リ公民トナルヲ得ルコトアリ(註) 國ニ對シテハ市町村會
以上ハ公民タルノ要件ニ關スル原則ナリ故ニ此要件ヲ備ヘサル者ハ決シテ公
民トナルコトヲ得サルハ固ヨリ論ヲ待タス然レトモ此處ニ注意スヘキハ右ノ
要件ヲ備ヘス從テ眞ノ公民タルノ資格ヲ得ルニ非スシテ然モ公民タルノ權利
ヲ有スル者アルコト是ナリ市ニ於テハ市長助役ハ本來有給職ニシテ之ニ選任
セラサルニハ市公民タルコトヲ必要トセス町村ニ於テハ町村長助役ハ原則ト
シテハ名譽職ニシテ之ニ選任セラサルニハ町村公民タルコトヲ要スレトモ例
外トシテ有給職ノ町村長助役ヲ置キタル場合ニハ町村公民ニ非サル者モ亦之
ニ選任セラサルコトヲ得此等ノ場合ニ於テ市町村公民ニ非サル者カ市町村長
又ハ市町村助役ニ選任セラレタルトキハ其者ハ之ニ依リテ當然市町村公民ト

ルノ權ヲ得ルコトナルナリ(市制五三)町村制五六如斯ク此等ノ者ハ眞ノ公民
ニ非スシテ法ノ特別ノ規定ニ依リ公民タルノ權ヲ有サルモ決シテ公故ニ公民
タルノ義務ニ至ラハ毫モ之ヲ負フコトナキナリ其義務ハハ市町村會ノ決議
公民タルノ權利ハ市町村ノ議決機關及行政機關ヲ組織スルニ必要ナル選舉ニ
參與シ及自ラ名譽職ニ選舉セラレ市町村ノ機關トシテ行動スル地位ニ立テ
得ルニ在リ公民タルノ義務ハ名譽職ニ選舉セラレタル場合ニ於テ之ヲ擔任ス
ルニ在リ市町村ノ選舉ニ參與スルノ權利ヲ行使スルト否トハ全ク各人ノ自由
ニ屬スレトモ名譽職ヲ擔任シ自ラ市町村ノ機關トシテ行動スルハ一面ニ於テ
公民ノ權利タルト同時ニ一面ニ於テハ其義務ナルカ故ニ公民ハ法定ノ理由ア
ル場合ニ非レハ決シテ之ヲ拒ムコトヲ得而シテ法カ名譽職ノ擔任ヲ拒ミ得
ル理由トシテ規定セルモノハ(一)疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサルコト(二)營業ノ爲ニ
常ニ其市町村内ニ居ルコトヲ得サルコト(三)年齡六十歳以上ナルコト(四)官職ノ
爲ニ市町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サルコト(五)四年間無給ニテ市町村吏員ノ職
ニ任シ爾後四年ヲ經過セザルコト又ハ六年間市町村議員ノ職ニ居リ爾後六年

ヲ經過セサルコト(六)其他市町村會ノ議決ニ於テ正當ト認ムル理由アルコト是ナリ從テ此等ノ理由ナクシテ初ヨリ名譽職タルコトヲ拒ミ又ハ任期中恣ニ退職スルカ如キハ公民ノ義務ニ違背スルモノトイハサルヘカラス然レトモ亦一ノ行為カ義務ニ違背セルヤ否ヤトイフコトト其行為カ全然無効ナルヤ否ヤトイフコトトハ全ク別箇ノ問題ニシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ退職ヲオスコトカ義務ニ違背スルカ故ニ其拒辭又ハ退職ノ行為其モノカ無効ナリトイフニ非ス何人ト雖モ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中其職ヲ退カントスルノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ依リテ當然其地位ヲ離ルルコトヲ得ルハ固ヨリ法ノ認ムル所ナリ唯義務ニ違背シテ拒辭又ハ退職ヲナシタル者ニ對シテハ其義務違背ニ對スル制裁ヲ與フルノ途ヲ設クルヲ至當トス故ニ前掲ノ理由ナクシテ名譽職タルコトヲ拒辭シ又ハ任期中退職シタル者ニハ市町村會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其市町村公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔スヘキ市町村費ノ八分一乃四分一ヲ増課スルコトヲ得而シテ公民權停止ノ處分ト市町村費増課ノ處分トハ必スシモ之ヲ併課スルヲ要セサルコト勿論ナリトス此外猶公然名譽職

ヲ拒辭シ又ハ退職ヲナスニ非サルモ然モ其職務ヲ實際ニ執行セス又ハ無任期中職務ヲ少クモ三年間擔當セサル者ノ如キハ事實ニ於テ公民ノ義務ニ違背スルモノナルカ故ニ此等ノ者ニ對シテハ市町村會ノ議決ヲ以テ前ニ掲グルモノト同一ノ制裁ヲ與フルコトヲ得此等ノ制裁處分ニ對シテハ訴願及行政訴訟ヲ提起スルノ途アリ而シテ之ニ關スル市制町村制ノ規定ニ付テハ少シク説明ヲ要スルモノアリ市制町村制ニ於テハ右ノ制裁處分ヲナシタル市町村會ノ議決ニ不服アル者ハ市ニ在テハ府縣參事會ニ訴願シ町村ニ在テハ先ツ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服ナラハ府縣參事會ニ訴願シ而シテ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルヲ得ヘキコトヲ規定セルカ故ニ一見スレハ其處分又ハ裁決ヲ違法ナリトスル場合タルト之ヲ不當ナリトスル場合タルトヲ問ハス苟モ之ニ不服ナル場合ニハ悉ク終局ニ於テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ許セルモノノ如シト雖モ法ノ異意ハ決シテ如斯クナルニ非スシテ其行政訴訟ヲ許スル處分又ハ裁決ヲ違法ナリトスル場合ノミニ限レルモノナルコト明ナリ此事ハ之ヲ行政訴訟其者ノ性質ニ照シ並ニ行政裁判所ヲ以テ

専ラ法律上ノ爭論ヲ判決スヘキ所トシ此標準ニ依リテ行政訴訟事項ヲ定メシトスル市制町村制全體ノ精神ニ考ヘ毫モ疑ヲ容レサルナリ(市制町村制全體ノ精神トシテ専ラ法律ノ問題ニ係ル爭論ノミニ對シテ行政訴訟ヲ許ストモルコトハ市制町村制理由書ニ於テ或ハ「行政裁判所ハ専ラ法律上ノ爭論ヲ判決スヘキモノニシテ公益ニ關スルコトハ一ニ利害ノ爭ニ過キサルハナリ」ト云ヒ或ハ「權利ノ消長ニ關スル結局ノ裁決ハ之ヲ行政裁判所ニ委任スルヲ妥當ト爲スハ上來屢之ヲ説明セリ」ト云ヘルヲ見テ明ナリ故ニ市町村會ニ於テ違法ニ制裁處分ヲナシタリトスルトキ例ヘハ疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサルカ爲メ名譽職ヲ拒辭シタルニ市町村會ニ於テハ之ヲ公務ニ堪ヘサル疾病ト認メス義務違反トシテ制裁處分ヲナシタルハ違法ナルニ依リ之ヲ取消ヲ求ムトイフカ如キ場合ニハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得之ニ反シテ制裁處分ヲ違法ニハ非サレトモ不當ナリトイフヲ以テ不服ノ理由トスルトキ例ヘハ市町村會カ其認定權ニ依リ名譽職ヲ拒辭シ又ハ退職スヘキ正當ノ理由アルヤ否ヲ認定シタル場合ニ其認定ヲ不當ナリトスルトキ又ハ市町村會カ六年間公民權ヲ停止スル處分ヲナシ

タル場合ニ之ヲ廢止スルモノトシテ其停止ノ期間ヲ短縮センコトヲ主張スルカ如キトキハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノナリトイハサルヘカラス如斯ク行政訴訟ヲ提起スルヲ得ルハ處分又ハ裁決ヲ違法ナリトスル場合ニ限ルコト明ナリト雖モ訴訟ヲ提起スルハ決シテ如斯キ場合ニ限ルモノニ非ス訴訟ハ一ノ處分又ハ裁決ヲ再審シテ之ヲ取消變更ヲナシコトヲ求ムルモノナルカ故ニ處分又ハ裁決ヲ不當ナリトスル場合ニ於テ之ヲ提起スルヲ得ルハ勿論ナリ從テ市制町村制ニ於テ市町村會ノ制裁處分ニ對シ郡縣參事會ニ訴訟シ若クハ府縣參事會ニ訴訟スルヲ得ヘキコトヲ規定セルハ處分ヲ違法ナリトスル場合ニ行政訴訟ヲ提起スルノ豫備段階トシテ之ヲナスコトヲ許セルノミナラス亦處分ヲ不當ナリトスル場合ニ之ヲ取消變更ノ處分ヲ求ムルカ爲メニモ之ヲナスコトヲ許セルモノナリト解釋セサルヘカラス唯府縣參事會ノ裁決ヲ猶不當ナリトスル場合ニ於テ進テ內務大臣ニ訴訟スルコトヲ得ヘキヤ否ノ點ニ關シテハ市制町村制ノ他ノ規定ニ依リテ之ヲ見サルヘカラス市制第十六條町制第二百二十條ノ規定ニ依レハ市制町村制中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外

市町村公民タル者ニシテ公民タルニ必要ナル前掲要件ノ一ヲ失フトキハ公民タルノ權ヲ失フモノトス又市町村公民ニシテ公權停止中又ハ租稅納納處分中ナルトキハ其間公民タルノ權ヲ停止セラルルモノトス其他家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ再問又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スベキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ確定ニ至ルマ

現行租稅法論 各種ノ租稅 地租 現行地租

ヲ説明スルニ當リ畧述之ヲ述タルヲ以テ今茲ニ再述之ヲ説カヌルニ始メ
土地ノ有租地ト爲タル場合ニ於テ直接ニ地價ヲ設定セス後年ニ至リ始メ
之ヲ設定シタルトキハ何レノ年ヨリ地租ヲ賦課スヘキヤハ地租條例ノ解釋上
重要ナル問題ニシテ之ニ對シテハ根本ニ於テ全ク相違シタルニ大議論カ互ニ
其主張ヲ執テ相讓ラサルコトハ既ニ之ヲ述ヘタリ此問題ハ地價修正ノ場合ニ
於テモ亦之ヲ起スコトヲ得ヘシ即チ地價修正ヲ爲スヘキ年ニ於テ之ヲ修正セ
ス後年ニ至リ之ヲ修正シタルトキハ何レノ年ヨリ修正地價ヲ適用スヘキヤ此
問題ニ關シテモ地價設定ノ場合ト殆ト同一ノ論旨ヲ以テ二説互ニ主張スル
所アリ予ハ此場合ニ於テモ地價修正ノ場合ニ付テ述ヘタルト同一ノ理由ヲ以
テ地價ノ修正ヲ爲スヘキ年ヨリ修正地價ヲ適用スヘキモノト爲ス者ナリト
雖モ此場合ニ於テハ地租條例第十四條ノ規定アルヲ以テ反對論者ハ成文上ノ
重要ナル根據ヲ有スト信スルモノノ如シ故ニ餘ノ論者ハ更ニ之ヲ重複スルノ
必要ヲ見スト雖モ地租條例第十四條ノ規定ニ付テハ一言ヲ要サザルヲ得ス該
條ハ之ヲ一讀スルトキハ地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵

收ストアルヲ以テ一見事實修正ヲ爲シタル年ヨリ修正地價ヲ適用スヘキモノ
ノ如シト雖モ此ノ如キハ法律ノ皮相ヲ見テ其精髓ヲ見サルモノナリ地租條例
ハ一方ニ於テ其第十條第二項ヲ以テ五年以內ニ地價ヲ修正シ六年自ヨリ之ニ
依リ地租ヲ徵收スヘキコトヲ定メ其第三項及ヒ第十九條ヲ以テ六年自ヨリ之
下年期明若クハ地價据置年期明ノトキ地價ヲ修正スヘキコトヲ規定シ他ノ一
方ニ於テ其第十四條ヲ以テ地價ヲ修正シタル土地ハ其年ヨリ修正地價ヲ適用
スヘキコトヲ定ム一法律中ノ各條文ハ互ニ其實質ナル執行ヲ豫期セテ規定セ
ラレタルモノト謂ハサルヘカラサルカ故ニ地租條例第十四條ノ規定ハ其第十
條及ヒ第十九條ヲ確實ニ執行セラルヘキコトヲ豫期スルモノト謂ハサルヘカ
ラス故ニ其意ハ地價ヲ修正スヘキ年ニ於テ之ヲ修正シ其年ヨリ之ニ依リテ地租
ヲ徵收スト云フニ在ルモノト爲ササルヲ得ス隨テ修正スヘキ年ニ地價ヲ修正
セザリシトキハ修正ヲ爲スヘキ年ヨリ之ヲ適用スヘキモノニシテ事實修正ヲ
爲シタル年ヨリ之ヲ適用スヘキモノニアラサルナリ若シ然ラズト言ハバ行政
官又ハ土地所有者ノ怠慢ノ爲メ或ハ地租負擔ノ一部ヲ免ルルコトヲ爲シ又ハ

過重ノ負擔ヲ爲スコトトスルハ法律ハ豈ニ此ノ如キ不公平ノ結果ヲ生ゼシムヘキコトヲ期シテ制定セラレタルモノナラシヤ反對論者ハ地租條例施行規則第九條ヲ引用シ地租條例ノ施行ノ爲メ地目變換ヨリ六年目以後ニ於テ變換アリシコトヲ發見シタルトキハ發覺ノ年ニ於テ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキ規定ヲ爲シタルハ地租條例ノ趣旨正ニ事實修正ヲ爲シタル年ヨリ修正地價ヲ適用スルニ在ルカ爲メナリト曰フナルヘシト雖モ予ハ此ノ如ク解セサルナリ若シ論者ノ主張スル如クシテ地租條例施行規則第九條ハ無用ノ贅文ナリト謂ヘサルヘカラス何トナレハ此ノ如キハ地租條例第十四條ノ正ニ規定スル所ナリト謂フヲ得ヘキヲ以テナリ予ヲ以テ之ヲ見レハ同條ノ場合ニ於テハ特ニ此ノ如キ取扱ヲ爲スヲ相當トシテ此ノ如キ規定ヲ設ケラレタルモノニシテ之ヲ以テ地租條例第十四條ノ意義ヲ定メタルモノト謂フコト能ハス然レトモ現今實際當局者ノ間ニ於テ解釋セラルル所ハ右論スル所ノ如クナラス地價設定ノ場合ニ付テ述ヘタルト同シク事實地價ヲ修正シタル年ヨリ修正地價ニ依テ地租ヲ徵收スヘキモノト爲サルルカ如シ而シテ取扱上

ノ便宜ノミニ付テ言ヘハ此取扱ハ予ノ所論ニ比シテ簡便ナル所多シ地價修正ニ伴フ納稅義務ノ區分ニ付テハ以上述フル所ヲ以テ畧盡シタリト信ス然レトモ以上ノ説明ト共ニ茲ニ併セテ地價修正ヲ要スヘキ土地ノ異動アルニ當リ其修正地價ヲ適用スルニ至ルマテノ間ニ於テハ孰レノ地目ニ依リ地租ヲ徵收スヘキヤヲ論スルハ全ク無關係ノ事項ヲ論述スルニアラスト思考スルカ故ニ少シク之ニ付テ説明スル所アラントス地目變換地類變換開墾等ヲ爲シタルトキハ從來ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收シ六年目十年目又ハ錄下年期明ノ年ヨリ始メテ修正地價ヲ適用スト言フハ是レ其土地ニ適用スヘキ地價ニ付テノミ謂フモノニシテ之ニ依リテ其土地ノ地目ヲ定ムルモノニアラス換言スレハ從來ノ地價ニ依リテ地租ヲ徵收スト言フハ決定シテ從來ノ地目ニ對スル地租トシテ之ヲ徵收スト言フノ意ヲ有スルモノニアラサルナリ地租ハ其土地ノ地目ニ依リ其定率及ビ納期ヲ同シウセサルヲ以テ土地異動ノ場合ニ於テハ何レノ時ヨリ其地目ヲ變スルモノナルヤハ研究ノ空論ニアラスシテ實際上ノ應用問題ナリ地價修正ニ關シテハ法律ニ於テ規定ス

ル所アルヲ以テ之ニ依リテ適用スヘキ地價ヲ定ムヘキモノナリト雖モ地目ノ變更ニ至リテハ法律ニ於テ何等ノ規定スル所ナキヲ以テハニ事實ニ依リテ之ヲ定メサルヘカラス而シテ事實ニ依リテ地目ヲ定ム言フト雖モ事實土地ノ異動ヲ爲シタルトキハ容易ニ之ヲ知ルヲ得サルヲ以テ予ハ法律ノ認メタル事實ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノナリト言ハント欲ス即チ法律ノ規定ニ於テ事實アリテ後地價ヲ據置キ又ハ年額ヲ付與スヘキモノト爲ストキハ法律ハ事實ヲ認ムルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ此場合ニ於テハ事實發生ノトキ地目ヲ變更スヘキモノナリ之ニ反シテ法律ノ規定ニ於テ事實ノ發生前地價ヲ據置キ又ハ年額ヲ付與スヘキモノト爲ストキハ法律ハ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年額ノ終了スルトキ事實發生スルモノト爲シタルモノト謂ハサルヘカラサルカ故ニ此場合ニ於テハ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年額ノ終了シタルトキ地目ヲ變更スヘキモノナリ地目變換地類變換及ヒ開拓ノ場合ニ於テハ變換又ハ開拓成功シタル後地價ヲ據置キ又ハ年額下年額ヲ付與スルモノナリ故ニ變換地ハ變換ヲ爲シタルトキ其地目ヲ變更シ開拓地ハ年額下年額ヲ許可ヲ受ケタルト

キ現況ニ依リテ地目ヲ付スヘキモノナリ之ニ反シテ開墾地又ハ地價據置年額ノ許可ヲ受ケタル土地ハ其成功前ニ於テ開墾ノ届出ヲ爲シ又ハ年額ノ許可ヲ受ケルモノナル故ニ地價ヲ修正スヘキトキ又ハ年額滿了ノトキ其地目ヲ變更スヘキモノト雖モ事實發生ノ取扱上ニ於テハ地目又ハ地類變換地ニ付テハ變換ナル事實發生シタル時ニ於テハ未タ其年ノ地租ヲ納メサルトキハ茲ニ述フル所ノ如キ取扱ヲ爲スト雖モ變換ナル事實發生シタル時ニ於テハ既に其年ノ地租ノ全部又ハ一部ヲ納メタルトキハ其翌年ヨリ地目ヲ變更セラルモノノ如シ蓋シ年ノ中間ニ於テ變換ヲ爲セタル場合ニ於テ其年ノ地租ハ孰レノ地目ニ依リテ之ヲ徵收スヘキカニ關シテハ地租條例中何等ノ規定スル所ナシ然ルニ其年ノ地租ヲ納メタル前後ニ依リテ區別ヲ爲スハ官民共ニ最も便宜ナル所ナルヲ以テ法文ノ缺如スル場合ニ於テ官民ノ共ニ便トスル所ニ從ヒテ適用ヲ爲スハ事ハ法律ノ精神ニ適スルモノト謂ハサルヘカラストモキヤリト爲ス土地異動ノ場合ニ於テ其修正地價ヲ適用スヘキ時期以前ニ在リテ更ニ異動ヲ爲シタルトキハ前ニ述ヘタル如ク地價ノ修正ヲ爲スヘキ時期ハ自ラ影響ヲ

及ホスモノナリ此場合ニ於テ地目ノ變更ニ關シテモ亦其影響ヲ受ケルモノナリト雖モ之ヲ説明スルハ頗細ニ過タルヲ以テ茲ニ之ヲ述ベ但シ上來記述シタル所ニ依リ之ヲ應用スルハ實際ニ於テ誤オキモノナリト信ス

第三、地價ノ低減ニ付官民ノ共ニ對イテハ租額ノ減額ヲ欲ス土地ノ荒地ト爲リタル場合ニ於テハ所有者ノ出願ニ因リ被害前ノ供用ヲ完カスルヲ得ルニ至ル期間ヲ計リ相當ノ免租年額ヲ許可スルモノナリト雖モ元來免租年額ヲ定ムルハ復舊期間ノ豫測ニ過キサルヲ以テ年期經過後ノ實蹟ニ就テ之ヲ見ルトキハ時トシテ事實ハ豫測ニ反シ其土地ハ尙ホ復舊ニ至ラサル場合鮮シト爲ラス然ルニ此ノ如キ場合ニ於テ年期満了ト共ニ直チニ原地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノナリトセハ天災ノ爲メ土地使用ノ利益ヲ減損シタル者ニ對シ其復舊ニ至ルマデ地租ヲ免スルコトト爲シタル法律ノ趣旨ハ尙ホ未タ貫カサル所アリト謂ハサルヘカラス故ニ免租年額明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノ及ヒ原形ニ復シ難キモノハ法律ハ更ニ免租年額ノ延長ヲ爲スヲ許スルコトハ前既ニ之ヲ述ヘタリ而シテ其既ニ荒地ノ形狀ヲ呈スルコトオキモ

地味未タ被害前ノ狀態ニ復セサルモノニ對シテハ相當ノ期間ヲ定メ其間低減シタル地價ニ依リテ其地租ヲ徵收シ以テ復舊ニ至ルマデ地租輕減ノ特典ヲ受ケシメ豫測免租年額ノ足ラサル所ヲ補フヲ得セシメタリ(地租條例第二一條第二三條)

地租條例第二十一條ニ依レバ地價ノ低減ハ七割以下之カ年期ハ十五年以内ニ制限セララルヲ以テ低價年額ヲ定ムルニハ土地ノ現況ヲ按シ七割以下ノ低減十五年以内ノ年期ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス如何ナル場合ニ於テモ七割以上地價ヲ低減シ又ハ十五年以上ノ年期ヲ定ムルコトヲ得サルモノナリ且ツ低價年額ニ關シテハ法律ハ繼年期ノ許可ヲ許ササルカ故ニ一タビ付與シタル年期ハ更ニ之ヲ延長スルコトヲ得サルモノナリトス(地租條例第二十一條)低價年額ハ左ノ二場合ニ於テ消滅スルモノトス(一)年期満了シタル場合ニ於テ其期間満了シタルトキハ低減ノ效力自ラ消滅ス(二)更ニ說明ヲ加フ

(四) 荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキ(地租條例施行規則第一三條) 低價年期中ノ土地ニシテ天災ノ罹リ地形ヲ變シタルカ爲メ荒地免租年期ヲ出願シ其許可ヲ受ケタルトキハ既ニ有スル低價年期ハ消滅スルモノトシ蓋シ低價年期トハ一定ノ年間地價ヲ低減シテ地租ヲ徵收スルヲ謂フモノニシテ荒地免租年期トハ年期ヲ定メ其間地租ヲ徵收セサルヲ謂フモノナリ地租ヲ徵收スルト之ヲ徵收セサルトハ相反撥シタル事項ニシテ同時ニ行フコトヲ得サルモノナリ土地所有者ニシテ既ニ低價年期ノ特典ヲ有スルニ拘ラス更ニ是ト併行スルコト能ハサル免租年期ノ許可ヲ請求シタルトキハ其意前者ノ利益ヲ棄テテ後者ノ利益ヲ得ントスルニ在ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ免租年期ヲ許可スルトキハ低價年期ハ自ラ消滅セサルヲ得タルナリ

低價年期中ノ土地ニ付キ其形狀ヲ變更シタル場合ニ於テ其變更地租條例ノ所謂地目變換地類變換又ハ開墾ニ該當スルトキハ低價年期ハ消滅スルコトナキヤ法令中何等ノ規定スルモノナクシテ予ハ此場合ニ於テ年期ハ消滅スルモノト謂ハサルヘカラスト爲スモノナリ何トオレハ此場合ニ於テ租稅取扱方ハ開墾

銀下年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタル場合ニ付キ地租條例施行規則第七條ノ定ムル所ト異ニスヘキ理由アルヲ見ナルヲ以テナリ然ルニ此場合ニ於テハ地租條例施行規則第十二條ニ於テ特ニ規定スル所ナリ低價年期中ハ如何ニ土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地類變換又ハ開墾ト看做サスト爲シタルヲ以テ低價年期中ノ土地ニ付キ其形狀ヲ變更スルコトアルモ地價修正ノ必要ヲ誘起スルコトナシ地價修正ニシテ之ヲ要セスハ年期ノ消滅ヲ惹起スヘキ謂レナキヲ以テ予ハ此場合ニ於テハ低價年期ハ消滅セサルモノナリト信ス地租條例施行規則第十二條カ低價年期中ノ土地ハ其形狀ヲ變更スルモ之ヲ地目變換地類變換又ハ開墾ト爲サスト爲シタルハ何等ノ理由ニ出テタルヤハ予ノ理解ニ苦シム所ナリト雖モ該條例ノ規定アル以上ハ予ハ此ノ如キ解釋ヲ敢ラサルヲ得ス而シテ低價年期中其形狀ヲ變更シタル土地ハ年期明ニ至リテハ原地價ニ復シ難キモノトシ地租條例第二十二條ニ依リ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルノ外ナカルヘシ

低價年期ヲ許可シタル土地ハ許可ノ初年ヨリ年期満了ノ年ヲテ低減シタル地

價ヲ適用シ滿了ノ年々翌年ヨリ原地價ニ依リテ其地租ヲ徵收スヘキモノトス

第四 地價ノ消滅

一 地價ノ消滅スル場合
地價ノ消滅ナルモノハ法令中明ニ之ヲ規定シタルモノナシ然レトモ地租條例第十一條カ免租地ニシテ有租地ト爲リタルトキハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ムヘキコトヲ定メタルヲ以テ見レハ有租地ニシテ免租地ト爲リタルトキハ其地價ハ自ラ消滅スト爲スモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ有租地ニシテ免租ト爲ルトキ其地價消滅スルモノト爲スニアラザレハ免租地ニシテ有租地ト爲ルトキ新ニ之ニ地價ヲ設定スルノ必要ヲ見サルヲ以テナリ是レ獨リ論理ノ結果ナルノミナラス實際ノ必要ヨリシテ言フモ亦此場合ニ於テハ地價ノ消滅アルモノト爲ナサルヘカラス元來免租地トシテ土地ヲ使用スルニハ多クノ場合ニ於テハ有租地トシテ之ヲ使用シタル場合ト其形狀ヲ變更セサルヘカラス故ニ再ヒ之ヲ有租地ト爲スモ其形狀ハ從前有租地タリシトキト同一ナラサルコト多シ假ニ一步ヲ譲リ有租地ノ形狀ヲ變スルコトナクシテ免租地ニ

使用スルコトヲ得タリトスルモ一旦免租地ト爲リタル後免租地中ノ各種目相變換スルコトハ法律之ヲ禁セザルヲ以テ後ニ至リ之ヲ有租地ト爲ストキハ其形狀ハ既ニ全ク變更シタル場合鮮シトセス此ノ如キ場合ニ於テ若シ當初有租地タリシトキニ有シタル地價ニ依リ其地租ヲ徵收スヘキモノトセハ地價ハ其地ノ所得ト比準ヲ得ス地租賦課ノ基礎ハ甚シキ不公平ノモノト爲ルヘシ故ニ有租地ニシテ免租地ト爲リタルトキハ或ハ其地價ヲ存シ再ヒ有租地ト爲リタルトキ之ヲ修正スルカ將タ免租地ト爲ルト同時ニ其地價ヲ消滅セシメ再ヒ有租地ト爲リタルトキハ更ニ新ニ之ニ地價ヲ付スルカ二者其一ノ方法ヲ選ビテ之ヲ適用セザルヘカラス而シテ前者ヲ取ルノ煩雜ハ後者ニ出ツルノ簡便ナルニ若カサルカ故ニ地租條例ハ其規定ノ反面ニ於テ有租地ニシテ無期免租地ト爲リタルトキハ其地價ノ消滅スルコトヲ認メタリ有租地ニシテ無期免租地ト爲リタル場合ニ於テ其地價消滅スヘキモノナリトセハ有租地ニシテ地租ヲ課セザル土地ト爲リタル場合ニ於テハ無論其地價ハ消滅スヘキモノト爲ナサルヘカラスナルヲ以テ有租地ニシテ御料地皇族賜邸又ハ國有地ト爲リタルトキハ其

地價ハ日ラ消滅スルモノトス。然レモ、新設ノ區域ニ對シ地價ヲ付スルハ予見ノ所ヲ以テ、土地分合ノ場合ニ於テ新規ノ區域ニ對シ地價ヲ付スルハ予見ノ所ヲ以テ、其ノ地價設定ヲ爲スモノナリ。而シテ此場合ニ於テ從前ノ區域ニ對スル地價ハ其區域ノ消滅ト共ニ消滅スルモノナルコトハ更ニ説明ヲ要セス。荒地免租年初ラ受ケタル土地ハ年期ノ許可ト同時ニ其地價ヲ失フモノナリトハ地租條例第二十二條ノ規定ノ反面ヨリ推論セラレタルニ、議論ナリト雖モ此場合ニ於テハ此ノ如キ解釋ヲ取ルコト能ハサルコトハ予カ既ニ詳論シタル所ナリ。而シテ荒地免租年期ヲ受ケタル土地ニ付キ論シタル所ハ之ヲ他ノ有期免租地ニ適用スルコトヲ得ヘキカ故ニ有租地ニシテ造林ヲ爲シタルカ爲メ免租年期ノ許可ヲ得ルモ其地價ハ消滅セサルモノトス。二、地價消滅ニ伴フ納稅義務ノ區分。有租地ニシテ地租ヲ課セサル土地又ハ無期免租地ト爲リタルトキハ地租ノ標準タル地價モ亦消滅ス。此場合ニ於テ地租ハ何レノ時ヨリ之ヲ免スルカ此問題ハ地租ヲ課セサル土地又ハ無期免租地ニシテ有租地ト爲リ地價ヲ設定シタル

トキハ何レノ時ヨリ其地租ヲ徵收スヘキヤトノ問題ノ反面ナリ。予ハ地價設定ノ場合ニ於ケル納稅區分ニ付キ論シタル如ク地租ハ年稅ナルヲ以テ法律ニ於テ特ニ例外ヲ定メタル場合ノ外ハ年ノ央ニ於テ無租地ト爲リタル土地ニ付テ其年ノ地租ハ全額之ヲ徵收シ翌年ヨリ始メテ之カ賦課ヲ廢スヘキモノト爲ス者ナリ。但シ後ニ説明スヘキカ如ク地租ハ納期ニ於テ土地臺帳ニ記名セラレタル者ヨリ徵收スヘキモノナルカ故ニ有租地カ御料ト爲リ又ハ國有ト爲リタル場合ノ如ク土地臺帳記名者カ地租ヲ納ムルコトヲ要セサル者ト爲リタルトキハ其納期ニ於ケル地租ハ之ヲ徵收セサルヘキハ勿論ナリ。然レトモ此ノ如キ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ之ヲ徵收スト爲シタル規定ヨリ生スル論結ニシテ地價消滅ニ伴フ納稅義務ノ區分トシテ然ルモノニアラサルナリ。予ハ法文ノ解釋トシテハ以上ニ述フル所ヲ以テ正鵠ヲ得タルモノト信スト。雖モ現行實際ニ取扱ハル所ハ右ノ如クナラシメテ地價消滅以後ニ係ル納期ニ屬スル地租ハ全ク之ヲ徵收セサルモノノ如シ是レ新ニ地價ヲ設定シタル場合ニ於テ既往納期ニ屬スル地租額ハ之ヲ徵收セサルト同一精神ニ出ヌルモノニシテ論理ノ結果

ヲ適度ニ止メテ行政處分ノ妥當ヲ計リタル地ノナルハシ、又ハ地價ノ暴落ニ因リ地價設定ノ場合ニ於テ原則ニ對スル特例アルカ如ク地價滑減ノ場合ニ於テモ法律ハ右ノ原則ニ對シ左ノ例外ヲ設ケタリ、以テ之ヲ總稱シテ「現行地租ノ全」トス。

(イ) 有租地ヲ買上ケ官有地ト爲シタルトキ明治十年太政官布告第十八號(此場合ニ於テハ買上ノ年ハ地租年額ヲ納ムルニ及ハス買上ノ前月マデ月割ヲ以テ計算シタル地租額ヲ納ムルハ足レリ但シ明治十年太政官布告第十八號第一條ニ民有地ヲ買上ル時ニ付テ規定スルカ故ニ有租地ヲ官ニ寄附シタル如キ場合ニ於テハ同條ヲ適用スルコト能ハス)

(ロ) 有租地ヲ鄉村社地墳墓地ト爲シタルトキ(地租條例第一三條ノ二) 此場合ニ於テハ其年ノ地租ハ鄉村社地又ハ墳墓地ト爲スノ許可ノ月ノ前月マデ月割ヲ以テ計算シタル租額ヲ徵收シ許可ノ月以後ノ月割ニ係ル租額ハ之ヲ免除ス。

(ハ) 有租地ヲ用器水路溜池隄塘井溝鐵道用地及ヒ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ(地租條例第一三條ノ一) 此場合ニ於テハ茲ニ掲ケタル土地ト爲スカ爲メニ施スヘキ工事ニ着手シタル月ノ前月マデノ月割地租額ヲ徵收シ工

事着手ノ月以後ノ月割額ハ之ヲ徵收セサルモノトス若シ何等ノ工事ヲ施サズシテ該供用ヲ爲ス土地ハ月割ノ例外ニ依ラズ原則ニ從フヘキモノトス其日租(二) 砂防法ニ依リ有租地ニ對シ一定ノ行爲ヲ禁止シ又ハ制限シタルトキ(明治三十二年勅令第三百七十四號第三條) 此場合ニ於テハ禁止又ハ制限ヲ爲シタル月以後ニ係ル月割租額ヲ免除スルモノトス

(ホ) 公共團體ノ所有地ヲ公用ニ供シタルトキ明治三十三年法律第十九號(始メテ公用ニ供シタル年ハ地租全額ヲ徵收シ其翌年ヨリ之ヲ免スヘキモノトス法律ハ明ニ公用ニ供シタル年ノ翌年ヨリ地租ヲ免スヘキコトヲ定ムルカ故ニ公用ニ供シタル日カ年ノ一月一日ニ在ルモ尙ホ其年ハ地租全額ヲ納ムルノ義務アルモノト謂ハサルヘカラス

第三款 課税ノ程度

第一 地租ノ課率
地租ノ沿革ヲ叙スルニ當リテ掲ケタル如ク地租改正ノ初年ニ於テハ

地租ハ地價ノ百分ノ三ヲ以テ其定率トシ、同時ニ爾後制定セラレハキ物品稅ノ收入二百萬圓以上ニ至ルトキハ新稅ニ係ル増加收入ノ割合ニ地租ノ課率ヲ輕減シ終ニ地價百分ノ一ニ至ラシムルコトヲ期セラレタリ明治十年減租ノ大詔出テ定率ハ減シテ地價百分ノ二分五厘ト爲リ明治十七年現行地租條例ノ制定セラレルニ及ヒ一定ノ年限毎ニ地價ヲ改正シ以テ法價ヲシテ實價ニ近カシムルノ方針ヲ拋棄セラレタルト共ニ物品稅ノ收入ヲ以テ地租輕減ノ財源ト爲スノ所期ハ之ヲ中止シ其第一條ニ於テ地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トスルコトヲ定メラレタリ故ニ有租地ニ付テハ其土地ニ付セラレタル地價百分ノ二箇半ノ割合ヲ以テ年年其地租ヲ納メサルヘカラサルモノトス

地租條例第一條第一項ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス「爲スカ故ニ納稅義務者ハ年年割合ヲ以テ地租ヲ納ムヘキハ無論ナリト雖モ」一年ノ定率トス「ト特ニ課率ノ上ニ」年ナル文字ヲ加ヘタルヲ以テ「見土地カ」一年ノ中途ニ於テ有租地ト爲リタルトキハ一年地價百分ノ二箇半ノ割合ヲ以テ其日數ニ應シテ地租ヲ算出スヘキモノナルカ如シト雖モ該條文ハ此ノ如キ意義ヲ以

テ制定セラレタルモノニアラス地租ノ年稅ナルコトハ古來ノ制度ニシテ地租故正條例又ハ現行地租條例ハ決シテ之ヲ改正スルノ趣旨アリシモノニアラス特ニ前ニモ論シタルカ如ク地租條例中ノ他ノ條文カ一年ノ中間ニ於テ有租地ニシテ免租地ト爲リ又ハ免租地ニシテ有租地ト爲リタルトキハ月割ヲ以テ其地租ヲ計算スヘキコトヲ定メタルヲ以テ見レハ此ノ如キ特別規定ナキ以上ハ常年額ヲ徵收セラルヘカラサルコト其趣旨ナリト謂ハサルヘカラス故ニ予ハ地租條例第一條第一項ヲ解シテ地租ハ地價百分ノ二箇半ノ定率ヲ以テ毎年之ヲ賦課ス「ト規定シタルト同一意義ヲ有スルモノト爲ス者ナリ但シ實際ニ於テハ有租地ヲ無租地ト爲シ又ハ無租地ヲ有租地ト爲シタルトキニ於テ納期ノ既ニ經過セルト否トニ依リ斟酌ヲ加フルコトハ前既ニ述ヘタルカ如シ

二 増率 地租條例第一條ハ其第一項ニ於テ地租ノ定率ヲ定ムルト同時ニ其第二項ニ於テ明治三十二年分ヨリ同三十六年分迄地租ニ於テ地價千分ノ八市街宅地地租ニ於テ地價百分ノ二箇半ヲ増徴スト定メタリ本項ハ明治三十一年法律第三十二號ヲ以テ追加セラレタルモノニシテ本項ノ如キ一時的ノ規定ニ

保ルモノヲ地租條例ノ本則中ニ掲ケタルハ立法ノ體裁上多少ノ議論アルヲ免
レサルヘシト雖モ體裁ノ議論ハ姑ク之ヲ措キ本項ノ規定ハ稍ヤ明瞭ヲ缺ク所
ナキニアラス然レトモ本項ヲ追加セラレタル所以ノ趣旨ヨリ推及スレハ本項
ノ意義ハ明治三十一年ヨリ同三十六年ニ至ル五年間ハ市街宅地ニ付テハ定率
ノ外地價百分ノ二箇半ヲ増徴シ其他ノ土地ニ付テハ定率ノ外地價百分ノ八ヲ
増徴スルニ在ルコト何等ノ疑ヲ容レズ即チ該年間ハ地租ノ課率地價百分ノ三
箇三又ハ百分ノ五ト爲リタルニアラスシテ定率地租ノ外地價百分ノ八又ハ百
分ノ二箇半ヲ附加稅ヲ課スルモノナリ此事タル單ニ文字上ノ爭論ナルカ如シ
雖モ實際ニ於テハ端數計算ニ依リテ生スル差違ノ爲メ稅額ニ些少ノ影響ヲ
及ホスモノアルヲ以テ特ニ茲モ一言ヲ費スモ必スシテ無用ニアラサルヘシ
第二 地租ノ輕減 地租ノ輕減ハ依リテ地租ヲ徵收スル制度ノ下ニ於テハ豐作ノ場合ニ於テハ定免以
外ニ納租額ヲ増加スルコトアルヘキカ如ク凶作ノ場合ニ於テハ定免以下ニ地
租額ヲ輕減スルコトナカルヘカラス租稅ヲ以テ國民カ其所得ノ一部ヲ割イテ國

用ニ費スルモノナリトセハ檢見法ニ依リ土地ノ收益ヲ調査シ之ニ依リ其負擔
額ヲ定ムルコト敢テ其理ナキニアラス然レトモ一利一害ハ事物ノ數ニ於テ免
レサル所ニシテ理論ニ於テ正理ヲ含有スルコト疑ナキ檢見法ナルモノモ實際
ニ於テハ實ニ弊害ノ淵源タルヲ免レザリシハ地租改正前ノ事實之ヲ證シテ餘
アリ地租改正ハ其趣旨土地ノ負擔ヲシテ公平ナラシムルニ在リシハ勿論ナリ
ト雖モ檢見法ノ弊害ヲ除去スルコトモ亦其斷行セラレタル所以ノ一因ヲ爲ス
モノナリ故ニ地租改正條例ハ其第二條ニ於テ地租ハ年ノ豐凶ニ依リテ増減セ
サルコトヲ明ニシ地租條例モ亦其第二條ニ於テ此精神ヲ言明セリ地租條例第
一條ハ地租ハ毎年土地臺帳ニ掲ケタル地價ノ一定ノ割合ヲ以テ之ヲ賦課スヘ
キコトヲ規定スルヲ以テ時ニ之ヲ増減スルノ必要アリトセハ特ニ之ヲ規定ス
ルヲ要スヘク特別規定ナキ限リハ地租ノ額ハ毎年一定シテ動クコトナカルヘ
キカ故ニ法文起草ノ上ヨリ言ヘハ地租條例第二條ノ如キハ實ニ無用ノ贅文ナ
リト謂ハサルヘカラス無用ノ贅文ニシテ尙ホ嚴然トシテ法律中ニ叙列セラル
ル所以ノモノヲ以テ檢見法ヲ廢スルノ實ニ地租改正ノ大精神ニシテ立法者カ如

何ニ國民ヲシテ此事ヲ其應ニ即セシムルヲ必要トシタルカヲ見ルニ足ルヘシ地租條例ノ制定者ハ獨リ年ノ豊凶ニ依リ地租ヲ増減セサルヲ必要トシタルノミナラス年ノ豊凶ニ依ラサル地租輕減ナルモノモ亦之ヲ認メタルヲ可トシタルモノノ如シ現ニ荒地免租年期ノ土地ニシテ其地力ノ復舊セサルモノニ對シテハ法律ハ低價年期付與ナル方法ニ依リ地租輕減ノ實行ヲ行フト雖モ法文上ニ於テハ地租輕減ナル名ハ則チ之ヲ用ヒタリヤナリ

地租條例ハ地租ノ輕減ナルモノヲ認メタル原則トスルコト以上述フル所ノ如シ而シテ此原則ハ實ニ明治三十年法律第二十九號砂防法第十一條ニ於テ例外ヲ設ケラレタリ砂防法第十一條ニ依レハ主務大臣カ砂防設備ヲ要スト爲シタル土地又ハ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止若クハ制限スヘキモノト爲シタル土地ハ其禁止又ハ制限ノ程度ニ因リテハ全ク其地租ヲ免ズルコトヲ得ト雖モ其禁止又ハ制限ノ程度ニ依リテ地租ノ免除ヲ必要トスルマデニ至ラサルモノハ之ヲ輕減スルコトヲ得ルモノトス而シテ此場合ニ於テハ低價年期ノ場合ノ如ク法律ハ特ニ輕減ノ割合ヲ定メサルヲ以テ行政官ハ土地占有者カ禁止又

ハ制限セラレタル行爲ノ程度如何ニ依リ之ニ相應シタル輕減ノ割合ヲ定メテ之カ許可ヲ爲スヘキモノナリ且ツ輕減スヘキ期間モ亦低價年期ノ場合ノ如ク一定ノ年間ヲ以テ之ヲ定メス明治三十二年勅令第三百七十四號第三條ヲ以テ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル月マデト爲スカ故ニ禁止又ハ制限ノ繼續スル間ハ其地租ヲ輕減シ其始期又ハ終期ニシテ一年ニ滿タサルトキハ月割ヲ以テ之カ計算ヲ爲スヘキモノトス

砂防法ニ依ル地租ノ輕減ハ一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ニ伴ヒ當然發生スルモノニアラス土地所有者ニシテ地租輕減ノ特典ヲ受ケント欲セハ必ス之ヲ所轄稅務管理局長ニ申請セサルヘカラス特ニ申請ハ明治三十二年勅令第三百七十四號第四條ニ依リ禁止又ハ制限ヲ命セラレタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲ササルヘカラサルヲ以テ此期日內ニ申請セサル者ハ後日ニ至リ出願ヲ爲スモ勅令ノ定ムル所ニ適合セサルノ故ヲ以テ地租輕減ノ特典ヲ受クルコト能ハサルモノナリ

第四款 納稅義務者

地租賦課ノ目的物ニシテ土地ニ在リトセハ地租ノ納付ヲ爲スヘキ者ハ其土地ノ所有者ナラサルヘカラスルハ殆ト疑ヲ容レス外國ノ立法例ニ於テハ土地カ地上權、永小作權、賃借權等ノ目的ト爲リタル場合ニ於テハ地上權者、永小作權者、賃借權者等ヲシテ地租納付ノ義務ヲ負ハシムルモノナキニアラスト雖モ此ノ如キハ明文ノ規定ヲ待テ始メテ然ルモノニシテ特別ノ規定ナクシテハ常ニ土地所有者ニ於テ地租ヲ納付スヘキコト當然ナリ然レトモ單ニ所有者ヲシテ地租ヲ納付セシムヘキモノト爲シ更ニ何等ノ規定ヲ爲ササルトキハ年ノ中途ニ於テ所有權ノ移轉アリタル場合ニ於テハ前後ノ所有者ヲシテ各其負擔スヘキ地租額ヲ分納セシメサルヘカラスシテ其間煩雜錯綜ヲ免レサルヘシ法律ハ此類難錯綜ヲ避クルカ爲メ一ノ規定ヲ設ケ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ之ヲ徵收スルモノト爲シタリ地租條例第一二條土地臺帳記名者ヨリ地租ヲ徵收ストハ語簡ニ過キヲ稍ヤ明瞭ヲ缺クト雖モ其意ハ地租ハ各納期ニ於テ現ニ土地ノ所有

者トシテ土地臺帳ニ登錄セラルル者ヨリ其納期ニ於テ納ムヘキ額ヲ徵收スト謂フニ在ルコト何等ノ疑ヲ容レス故ニ納期前僅僅數日前ニ於テ所有權ノ移轉アリ土地臺帳ノ記名者ヲ變更シタル場合ト雖モ其納期ノ地租額ハ後ノ所有者ニ於テ之ヲ納メサルヘカラス之ニ反シテ所有權ノ移轉アルモ土地臺帳ノ記名者ヲ變更セサルトキハ地租ハ常ニ舊所有者ニシテ土地臺帳ニ登錄セラルル者ニ於テ之ヲ納付セサルヘカラス

地租ハ納期ニ於ケル土地臺帳記名者ヨリ徵收スヘキモノトセハ納稅告知書ヲ發シタル後納期ノ到來前ニ於テ土地臺帳記名者變更シタル場合ニ於テハ舊記名者ニ對シテ爲シタル納稅告知書ハ之ヲ取消シ新記名者ニ對シ更ニ納稅告知書ヲ發シテ徵收ノ手續ヲ爲スヘキハ當然ナリ若シ納期ニ入りテ記名者ニ變更アリタル場合ニ於テハ舊所有者ヨリ地租徵收ヲ爲スヘキカ將タ新所有者ヲシテ之ヲ納メシムヘキヤ地租條例ハ此場合ニ關シ特ニ規定スル所ナシト雖モ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收スト謂フハ徵收スヘキ時ニ於テ土地臺帳ニ記名セララル者ヨリ之ヲ徵收ストノ意ヲ有スルモノト解セサルヘカラス故ニ嚴正ノ解釋

論ヲ爲ストキハ舊所有者ニシテ既ニ地租ヲ納メタルトキハ之ヲ以テ完了ト見
ザルヘカラスト雖モ舊所有者未タ地租ヲ納メタルトキハ新所有者ヲテ之ヲ
納メシムヘキモノナリト信ス但實際ニ於テハ納期中ニ記名者ヲ變更シタル
場合ニ於テハ既ニ告知書ヲ發シタルヤ否ヤヲ以テ區別シ既ニ告知書ヲ發シタ
ルモノニ在リテハ其舊記名者ヨリ納付ノ手續ヲ爲サザムルヲ以テ便宜ト爲
スナルヘシ

地租條例第十二條ハ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收スルコトヲ定ムルカ故ニ
地租條例ノ施行上ニ於テハ納期ニ於ケル土地臺帳記名者ハ實ニ其期ニ納ムヘ
キ地租額ノ納稅義務者ナリ然レトモ元來同條ハ地租條例ノ施行上便宜納稅義
務者ヲ定メタルニ過キヌシテ其效力ハ全ク公法上ノ關係ニ止マルモノトス故
ニ私法上ニ於テ地租ノ最終負擔者ヲ定ムルコトハ該條ノ關スル所ニアラス各
自ハ其契約ヲ以テ地租額ノ全部ハ舊所有者又ハ新所有者ニ於テ之ヲ負擔スヘ
キコトヲ定メ若クハ新舊所有者ニ於テ其所有ノ日數ニ應シテ之ヲ分擔スヘキ
コトヲ定ムルコト其自由ナリトス

原則トシテハ地租ハ所有者トシテ土地臺帳ニ登錄セラレタル者ヨリ納付スヘ
キモノナリト雖モ質入ノ土地ニ限リテハ其質取主ニ於テ之ヲ納ムヘキモノトス
蓋シ質權ノ目的ト爲リタル土地ハ質權者ニ於テ之ヲ占有スルモノニシテ普通
ハ質權者其用方ニ從ヒ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ故ニ民法ニ
於テハ現ニ土地ノ負擔ハ質權者ニ於テ之ニ任スヘキコトヲ定メタリ公法上ノ
關係ヨリ見ルモ土地ノ負擔ハ現ニ土地ノ占有ヲ爲シ其使用收益ヲ爲ス者ヲシ
テ之ニ任セシムルコト徵收上便宜多キヲ以テ質入地ノ地租ハ之ヲ質取主ヨリ
徵收スヘキモノト爲シタルナリ然レトモ地租條例第十二條ノ規定ハ既ニ述ヘ
タル如ク公法上特ニ必要トスル理由アリテ設ケラレタルモノニシテ私法上ノ
關係ニ因リテ左右セラルヘキモノニアラサルカ故ニ土地質入ノ場合ニ於テ當
事者カ設定行爲ヲ以テ質權者ハ土地ノ負擔ニ任セサルコトヲ定メタル場合ト雖
モ國家ニ對シテハ質權者ハ地租ヲ納ムルノ義務ヲ免ルルコト能ハサルモレナリ

第五款 納期

現行租稅法論 各種ノ租稅 地租 現行地租

地租ノ納期ハ明治二十四年法律第二號ヲ以テ之ヲ定メラレタリ該法律ノ全文左ノ如シ

地租徴收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行スルモノニシテ
但市街宅地地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日ヲ限リ兩期ニ其五分宛ヲ徴收スルモノニシテ
一期 該年九月一日ヨリ 畑方及宅地 五分
二期 該年十一月一日ヨリ 山林原野牧場 五分
三期 該年十二月十六日ヨリ 田 五分
四期 翌年二月一日ヨリ 同 五分
五期 同年三月三十一日限 同 五分
六期 同年五月三十一日限 同 五分

右法文ヲ一見スルトキハ直チニ其掲記スル地目カ有租地ノ地目全部ニアラザルコトヲ發見スヘシ即チ該法律ノ文字ノミニ就テ之ヲ謂フトキハ鹽田鑛泉地池沼雜種地ノ四地目ニ關スル地租ニ付テハ其納期ノ規定ナキモノト謂ハテハカラス然レトモ法律全體ノ精神ヨリ見レバ市街宅地ノ如ク普通月額ヲ以テ其賃賃料ヲ定メ毎月之ヲ收入スルモノニ在リテハ地租年額ヲ二分シ之ヲ其年七月及ヒ翌年一月中ニ徴收シ田地ノ如ク秋收ヲ經テ始メテ其果實ヲ取得スルコトヲ得ルモノニ在リテハ地租年額ヲ四分シ米穀ノ賣拂ニ因リテ得タル金銀ヲ以テ其四分ノ一ツツヲ納付スルコトヲ得セシムルモノトモ其他ノ土地ニ關スル地租ハ總テ年額ヲ二分シ其年九月及ヒ十一月中ニ之ヲ納メシムルモノト謂フナリト謂フコトヲ得ヘキカ故ニ鹽田鑛泉地等ノ地租モ亦其年額ヲ二分シ九月及ヒ十一月ニ於テ各其三分ノ一ヲ徴收スヘキモノトスルモノトモ
以上ハ地租ノ納期ニ關スル一般ノ規定ナリ鹿兒島縣下ニ於ケル離島ノ如キハ大海ニ懸絶セラル交通不便ニシテ規定ノ納期ニ地租ヲ納ムル能ハサルノ事情アルヲ以テ明治三十年法律第五號ヲ以テ左ノ如ク規定シ以テ一般規定ニ對ス

ルノ例外ヲ設クルコトモラレタリ。又、城、鎮、村、郷、ノ地租ハ明治二十四年法律第二號地租徵收期限ニ依ラス左ノ期限ニ依リ徵收ス。大隅國大島郡ノ内大島徳ノ島沖永良部島喜界島與論島。豐年五月二日ヨリ同三十一日限。薩摩國川邊郡ノ内硫黃島竹島黒島口ノ島中ノ島平島諏訪ノ瀬島臥蛇島ノ惡石島寶島。豐年五月二日ヨリ同八月三十一日限。故ニ右ノ島嶼ニ於ケル地租ハ其地目ノ如何ニ關セス總テ之ヲ取纏メ右明治三十年法律第五號ノ定メタル納期ニ於テ之ヲ納ムヘキモノナリ。其他地租條例ノ施行ナキ北海道ニ於ケル地租ノ納期ハ明治二十二年大藏省令第十二號ヲ以テ特別ニ之ヲ定メ沖繩縣及ヒ東京府管轄伊豆七島小笠原島ノ如キ舊慣ニ依リテ地租ヲ徵收スル地方ニ於ケル地租ノ納期ハ一ニ其舊慣ノ定ムル所ニ從フモノナリ而シテ沖繩縣ハ土地整理完了ト共ニ地租條例ヲ施行セラル

ルニ至ルヘシト雖モ地租ノ納期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘキコト沖繩縣土地整理法第二十四條ノ規定スル所ナルカ故ニ該縣ノ如ク氣候風土ノ内地ト同シラス面モ其交通ニ便宜ヲ缺クコト勸カラサル地方ニ關シテハ勅令ノ定ムヘキ地租徵收期限ハ内地一般ノ納期ト自ラ異ナル所アルヘキハ殆ト言フヲ須ヒス。

第六款 土地ニ關スル申請申告

既ニ述ヘタル如ク鐵下年期新開免租年期地價措置年期荒地免租年期低價年期造林地免租年期ノ許可及ヒ砂防法ニ依ル地租ノ免除又ハ輕減ハ出願ヲ待テ始メテ之ヲ與フルモノナルカ故ニ之ヲ許可ヲ受ケンツル者ハ其土地ヲ表示シ許可ヲ受クヘキ事由ヲ明ニシ所轄稅務管理局長ニ申請セサルヘカラス(地租條例施行規則第一四條明治三十二年勅令第三百七十四號)土地ヲ表示スルニ當リ時トシテハ文字ノミヲドテ之ヲ爲スコト容易ナラサル場合ナキニアラス此ノ如キ場合ニ於テ申請者カ地圖ヲ添附シテ圖解ヲ爲スハ官民共ニ便トスル所ナ

ルヘント雖モ法令ハ之ヲ以テ申請者ノ義務ト爲サシカ故ニ土地ヲ表示
スル方法ハ一ニ申請者ノ選フ所ニ任スヘキモツトス但シ申請書ニ掲クル所ノ
土地ノ表示明瞭ナラサル場合ニ於テ稅務管理局長カ申請者ヲシテ之ヲ明ニセ
シムルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ
賃權ノ目的タル土地ニシテ荒地ト爲リタル場合又ハ鐵下年期若クハ新開免租
年期ヲ有スル土地ニシテ賃權ノ目的ト爲リタル場合ニ於テ其荒地免租年期若
クハ低價年期ノ申請又ハ鐵下年期若クハ新開免租年期ノ鐵年期申請ハ何人ニ於
テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ此問題ニ對シテハ議論ハ自ラ所有者說ヲ主張スル者ハ地
租條例カ申請又ハ申告ヲ爲スヘキコトヲ規定スル場合ニ於テ常ニ申請又ハ申
告ヲ爲スヘキ者ヲ明示セザルヲ論據トスルモノニシテ土地ニ付キ法令ニ於テ何
等主格ヲ指定スルコトナクシテ申請又ハ申告ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルト
キハ常ニ其所有者ヲシテ之ヲ爲シタルノ意ナリト解スルコト當然ナルヲ以
テ此場合ニ於テモ所有者ニ於テ年期又ハ鐵年期ノ申請ヲ爲スヘキモノト爲ス

コト法文解釋ヨリ生スル當然ノ結果ナリト謂フモノナリ賃取主說ヲ維持スル
者ハ專ラ地租條例第十二條ニ依リテ立論スル者ニシテ其議論ハ年期又ハ鐵年
期ノ許可ハ一定ノ期間地租ヲ免除スルカ若クハ比較的低價ナル地租ヲ徵收ス
ルヲ謂フモノナルカ故ニ之カ申請ハ納稅義務ニ關スル免除又ハ輕減ノ申請ナ
リ故ニ其申請ヲ爲シ得ル者ハ獨リ納稅義務者アルノミ而シテ賃入ノ土地ニ付
テハ地租條例第十二條ニ依リ賃取主其納稅義務者ナルヲ以テ年期又ハ鐵年期
ノ申請ハ賃取主獨リ之ヲ爲スコトヲ得ト謂フニ在リ所有者賃取主共同說ニ至
リテハ前二說ノ折衷論ニシテ賃取主ハ賃入ノ土地ニ付テハ其納稅義務者ナル
ヲ以テ年期又ハ鐵年期ノ許可ニ付テハ最モ利害ノ關係ヲ有スト雖モ所有者モ
亦之ニ關シテハ賃取主ニ讓ラサル利害關係アルモノナリ何トガレハ所有者ハ
時トシテ賃權ノ設定行爲ヲ以テ私法上ニ地租ノ負擔ヲ爲スヘキ者ト爲ルコト
アル者ナルノミナラス縱令此ノ如キ特約ナキ場合ト雖モ賃權消滅ノ後ハ自ラ
納稅義務者ト爲ル者ナルヲ以テ年期又ハ鐵年期ノ許可アリシト否トハ其利
害ニ影響スルコト尠カラサルヲ以テナリ此ノ如ク兩者ノ利害ニ關スル事項ハ

兩者ノ一ニ於テ其申請ヲ爲スヘキモノニアラス必キ其共同ヲ以テ之カ申請
ヲ爲ササルヘカラスト爲スモノナリ予ヲ以テ之ヲ見ルニ以上ノ三說ハ法文ニ
拘泥シテ寧ロ其精神ヲ遺ルルノ非難ヲ免レサルカ如シ元來年期又ハ年期ノ繼
續ナルモノハ納稅者ノ義務ヲ免除シ又ハ之ヲ低下ニ據置クモノニシテ決シテ
之ヲ増加スルモノニアラサルカ故ニ立法論トシテ言ヘハ之カ申請ハ特ニ所有
者又ハ質取主ノ其ニ限ラサルヘカラストノ理由アルモノニアラス一方ニ於
テハ既ニ兩者ノ一ニ限ルノ必要ナキモノナリ而モ兩者各之ヲ申請スルニ
付キ重大ナル利害關係ヲ有シ他ノ一方ニ於テハ法律命令其ニ明ニ年期又ハ年
期ノ繼續ヲ申請スヘキ者ヲ定メサリシトモハ法律ノ意ハ所有者又ハ質取主ヲ
シテ各之カ申請ヲ爲シ以テ自己ノ利益ヲ保留スルヲ得セムルニ在リシモノ
ト謂ハサルヘカラスト若シ然ラスシテ前三說ノ其ノ一ノ如クスヘキモノトモハ所
有者又ハ質取主ハ他ノ怠慢又ハ故意ノ爲メ其受クヘキ利益ヲ享有スル能ハサ
ルニ至ルコトアルヲ免レス一ノ解釋ヲ取レハ法律ノ規定ハ故ナクシテ他人ノ
怠慢又ハ故意ノ爲メ各自ノ受クヘキ利益ヲ完ウスル能ハサルニ至ラシムルモ

ノト爲リ他ノ解釋ニ依レハ此ノ如キ結果ヲ生セサルコトヲ得トセハ後者ノ解
釋ニ從フコト最モ穩當トスヘキニアラスヤ故ニ質入地ニ關シタル其荒地免租
年期若クハ低價年期又ハ續下年期若クハ新開免租年期ノ繼年期ハ所有者及ヒ
質取主ノ共同ヲ以テ之ヲ申請スルコト最モ便宜トスル所ナルヘシト雖モ若シ
兩者共同スル能ハサル場合ニ於テハ其一方ニ於テ單獨ニ之カ申請ヲ爲スヲ得
ヘキモノト爲スコト地租條例ノ精神ト一致スルモノナリト信ス

以上叙述スル所ハ渾ヲ出願ニ依リ納稅義務者ノ利益ト爲ルヘキ許可ヲ受クル
場合ニ係ルモノナリ故ニ所有者又ハ質取主ニシテ其利益ヲ受クルヲ欲セサル
トキハ申請ヲ爲サスシテ可ナリ以下ニ記述セントスル所ハ之ニ異ナリ行政上ノ
必要ニ依リ土地所有者又ハ質取主ヲシテ必キ申請又ハ申告ヲ爲サシムルモノ
ナルカ故ニ規定ノ場合ニ於テハ所有者又ハ質取主ハ任意ニ之ヲ省略スルヲ得
サルモノナリ行政一般ノ上ニ於テハ土地ニ關シ各種ナル申請又ハ申告ヲ爲ス
ヘキコトヲ命令スト雖モ地租事務ニ影響ナキモノハ之ヲ舉クルノ必要ナキカ故
ニ茲ニハ土地ニ關スル申請又ハ申告ニシテ地租事務ニ關聯スルモノノミニ付

キ提出ス。官廳公署ニ依テ區別シ其大要ヲ説明ス。
 甲 地方長官又ハ警視總監ニ申請ス。キ場合。
 土地ノ異動ニシテ地租ニ關係スルモノハ中地方長官又ハ警視總監ニ申請ス。
 キモノ左ノ如シ。
 一 有租地ヲ鄉村社地ト爲サントスルキ明治十一年內務省乙第五十七號達
 第一條第二條。明治十一年內務省乙第五十七號達ハ社寺ノ創建又ハ移轉廢合
 等ニ付キ願出ヲ爲ス。キコトヲ定ムト雖モ此等ノ出願ヲ爲スニ當リテハ社寺
 ノ地所ヲ指定ス。キモノナルヲ以テ鄉村社ノ許可ハ自ラ同時ニ有租地ヲ鄉村
 社地ト爲スノ許可ト爲ルモノトス。
 二 有租地ヲ墳墓地ト爲サントスルキ明治十七年太政官第二十五號布達
 墓地及ヒ埋葬取締規則第八條及ヒ同年內務省乙第四十號達ニ本キ警視廳及ヒ
 府縣ハ廳府縣令ヲ以テ墓地ノ取廣メ又ハ新設ニ必ス之ヲ出願ス。キモノト定
 メタルヲ以テ有租地ヲ墳墓地ト爲サントスルトハ地方長官東京ニ於テハ警
 視總監ニ申請シテ其許可ヲ受ケサルヘカラス。

三 免租地ヲ有租地ト爲サントスルキ(地租條例第一一條)地租條例ニ於テ
 免租地ト稱スルハ其第四條ニ掲タル土地ヲ謂フカ故ニ第四條ニ掲タル土地ヲ
 有租地ト爲サントスルトキハ常ニ地方長官ニ申請シテ其許可ヲ受ケサルヘカ
 ラス。鄉村社地又ハ墳墓地ノ如ク信仰上ノ關係又ハ警察上ノ取締ノ爲メ其創設ノ
 場合ニ於テ許可ヲ受ケシタルモノハ之ヲ廢止スル場合ニ於テモ亦許可ヲ受
 クシムルコト當然ナリト雖モ其他ノ土地ハ當初第四條ニ該當スルニ至リタル
 トキニ於テハ何等ノ許可ヲ要セザルシニ其供用廢止ノ場合ニ限リ地方長官ノ
 許可ヲ受ケサルヘカラサルハ其理由ヲ了解スルニ苦シムト雖モ恐クハ此ノ如
 キ土地ハ一旦其供用ヲ爲シタル以上ハ其廢止ハ所有者以外ノ者ノ利害ニ關ス
 ルコトナキニアラサルモノナルヲ以テ地方長官ニ申請セシメ以テ廢止ノ爲
 メニ甚シク利益ヲ害セラレザル者ナカラシメントスルノ意ニ出タルナルハ
 シ。公益ヲ害スルモノハ之ヲ廢止スルコトヲ決定スルモノナリ。
 四 森林ノ開墾ヲ爲サントスルトキ(明治三十年法律第四十六號森林法第六條)
 森林ナルモノハ水源氣象防水等種種ノ點ニ於テ地方ノ公安ト關係ヲ有スルモ

ノナルヲ以テ之カ保存ハ公衆ノ福利ニ關スルコト動カラサルモノナリ故ニ法律ハ森林ノ開墾ニ付テハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受クニキモノト爲シ以テ私益ノ爲メニ公益ヲ犧牲トスルカ如キコトナカラシメンコトヲ期シタリ而シテ森林法ノ所謂開墾ナルモノハ山林ヲ變シテ燒畑切替畑ト爲ス場合又ハ山林ヲ伐採シテ之ヲ有租地第二類地中ノ他ノ地目ト爲ス場合ヲモ包含スルモノナルカ故ニ森林法第五十二條地租條例ニ於テハ開墾ト稱スル場合ハ勿論開墾ト稱セシテ地目變換ト稱スル場合ト雖モ苟モ森林ヲ伐採シテ他ノ地目ト爲ス場合ニ於テハ森林法ハ之ヲ以テ開墾ト爲スカ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ必ス之ヲ地方長官ニ申請シ其許可ヲ受ケタルヘカラサルモノトス

地租ニ關係アル土地ノ異動ニシテ地方長官又ハ警視總監ニ申請スヘキ場合ハ凡ソ右ニ舉グル所ノ如シ而シテ其孰レノ場合ニ於テモ法律カ土地所有者ヲシテ申請ヲ爲サシムル所以ノモノハ專ラ公安ヲ維持セントスルノ趣旨ニ出ツルモノニシテ地租徵收上ノ必要ニ因ルモノニアラス然レトモ土地所有者ニ於テ既ニ地方廳又ハ警視廳ニ申請ヲ爲シタル以上ハ該官廳ヨリ其異動ヲ稅務官廳

ニ通知シ以テ地租徵收上ノ必要ニ應スルノ便アルヲ以テ所有者ヲシテ同一事項ニ付キ更ニ稅務管理局長ニ申告ヲ爲サシムル代リニ明治三十一年內務省訓令第四一〇號同年大藏省訓令第一〇九二號明治三十二年大藏省訓令第三十二號及ヒ明治三十一年大藏省訓令第七十二號ハ官廳間ニ於テ通知ヲ爲シ以テ地租事務ノ處理ヲ了スヘキモノト爲シタリ

免租地ヲ有租地ト爲ストキハ地價ヲ設定セサルヘカラサルカ故ニ此場合ニ於テハ所有者ヲシテ測量圖ト共ニ其土地ノ見積地價ヲ申立サシムルコト稅務官廳ノ最モ便トスル所ナルヘシト雖モ法令ハ此事ニ付キ何等ノ規定スル所ナキヲ以テ有租地ヲ免租地ト爲シタル場合ニ於テハ稅務官廳ハ常ニ自ラ進テ土地ヲ丈量シ地價ノ査案ヲ爲スヘキモノト謂ハサルヘカラス

乙 稅務管理局長ニ申告スヘキ場合 三十二條文書開合第五條ニ於テハ左ノ場合ニ於テハ所有者又ハ買取主ハ稅務管理局長ニ申告スルコトヲ要ス

一 有地租ヲ用恩水路溜池隄塘井溝鐵道用地公衆ノ用ニ供スル道路水道用地及ヒ傳染病院隔離病舍隔離所消毒所ノ敷地ト爲ストキ地租條例施行規則第一

五條第一項第一號(地租條例施行規則ノ制定セラレタル當時ニ於テ法律上無期ニ地租ヲ免スヘキ土地ハ茲ニ掲タルモノノ外ハ公立學校地鄉村社地墳墓地及ヒ保安林ニ過キス公立學校ハ郡長府縣知事等ニ於テ之ヲ定メ之ヲ稅務管理局長ニ通知スルモノナルカ故ニ(明治三十二年文部省訓令第五號之ニ付テ更ニ申告セシムルノ必要ナシ)鄉村社地墳墓地ヲ取廣又ハ新設ニ付テハ既ニ述ヘタル如ク地方長官ニ申請セシムルヲ以テ稅務官廳ハ既ニ之ヲ知ルノ途ヲ有スルモノナリ保安林ノ編入解除ニ至リテハ官報及ヒ府縣公報ヲ以テ之ヲ告示スルカ故ニ森林法第一七條是レ亦稅務官廳ニ申告セシムルノ必要ヲ見タルモノナリ故ニ地租條例施行規則第十五條第一項第一號ハ地租條例施行規則發布當時ニ於テハ有租地ヲ免租地ト爲シタルトキハ所有者ノ申告アルニアラナレハ稅務官廳ハ他ニ之ヲ知ルノ途ナキ場合ヲ網羅シタルモノナリ然ルニ明治三十三年法律第十九號ノ發布セラレタルニ至リ地租ヲ免スル土地ハ大ニ其種類ヲ增加シタルカ故ニ之カ届出方ニ付テハ早晚更ニ規定セラレル所アルヘシト雖モ現今ハ尙ホ未ダ何等ノ規定ナキヲ以テ所有者ハ之カ申告ニ關シ規定上ノ義務ヲ有

スルコトナシ但シ所有者ニシテ該法律ニ依リ免租ノ特典ヲ得ントセハ稅務官廳ヲシテ土地カ該法律ニ該當シタルコトヲ知ラシメタルヘカヲタルカ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ自ら所有者ハ進テ其申告ヲ爲スニ至ルモノナルヘシ
二 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキ地租條例第一〇條第一項地租條例施行規則第十五條第一項第二號(地租條例ハ地方廳ニ届出ツヘキコトヲ定ムト雖モ官制ノ改正ニ因リ租稅ニ關スル事務ハ稅務管理局長ノ職務ニ屬シタルカ故ニ施行規則ハ之ヲ稅務管理局長ニ届出ツヘキモノト爲シタルナリ又森林ニ關シテハ森林法ハ地租條例ニ於テ地目變換ト爲スモノヲモ之ヲ開墾ト爲シ地方長官ノ許可ヲ受ケシムルコト既ニ述ヘタル如シ而シテ地目變換ニシテ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノハ許可出願ヲ以テ届出ト看做スコト地租條例施行規則第十條ノ定ムル所ナルカ故ニ森林ヲ變換シテ牧場又ハ原野等ト爲サントシ地方長官ノ許可ヲ得タルモノハ更ニ地目變換トシテ之ヲ稅務管理局長ニ届出ツルヲ要セサルモノナリ
三 開墾ヲ爲サントスルトキ開墾成功シタルトキ又ハ開墾ヲ廢止シタルトキ

(地租條例第一六條第一項)地租條例施行規則第一五條第一項第三號(開墾ニ關シテモ亦地租條例第十六條ハ之ヲ地方廳ニ届出ツヘキモノト爲スト雖モ官制改正ノ結果同條ノ所謂地方廳ナルモノハ之ヲ稅務管理局ト解セサルヘカラス且ツ許可ヲ受ケタル開墾ニ關シテハ更ニ届出ヲ要セサルコト地目變換ノ場合ニ同シ(地租條例施行規則第一〇條成功ト廢止トノ申告ハ事實成功又ハ廢止ヲ爲シタルトキニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ開墾後十年目又ハ開墾銀下年明ノ時ヲ待ツヘキモノニアラス但シ銀下年明ノ時ニ至リ成功セタルモノハハ年明明ノ申告ト共ニ成功ノコトヲ届出テ可ナリ)

四 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付キ銀下年期ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルキ(地租條例施行規則第一五條第一項第四號)開拓地又ハ新開地ニ付テハ銀下年期又ハ免租年期ノ許可ヲ受タルコトヲ得ルモノナリト雖モ年期ノ許可ハ所有者ノ出願ヲ待テ始メテ之ヲ與フルモノナルカ故ニ所有者ニ於テ之ヲ出願セサルトキハ其地ノ現況ニ依リテ地價ヲ設定セサルヘカラス故ニ所有者ヨリ開拓又ハ新開ニ因リテ民有ト爲リタル旨ヲ申告

モシテ地價設定ノ手續ヲ爲サントシタルモノナラバ、其地價ハ其地價ノ額ニ其地價ノ額ノ五割ニ開墾額下年定期開拓額下年定期新開免租年定期地價據當年定期開墾地免租年定期最低年定期ニ至リタルトキ地租條例施行規則第一百五條第一項第五號地租條例施行規則其他ノ法規ニ於テハ造林免租年定期開墾地ハ年定期ニ至ルモ申告ヲ爲スヘキコトヲ定メス蓋シ地價ヲ有スル土地ニシテ免租年定期受ケタルモノハ年定期ニ至レバ當然其地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノニシテ別ニ之カ申告ヲ爲サシムルノ必要ナキヲ以テナリ之ニ反シテ地租條例施行規則第十五條第一項第五號ニ掲タル年定期有スル土地中ニハ年定期ニ至リ地價ノ設定又ハ修正ヲ要スルモノアリ其地價ノ設定又ハ修正ヲ要セサルモノト雖モ登錄稅ヲ納メサルヘカラザルヲ以テ年定期ニ於テ申告ヲ爲サシメテ以テ地租事務ノ處理又ハ登錄稅ノ徵收ニ便ナラシメタルナリ

六、土地ノ合併又ハ分割ヲ爲サントスルトキ地租條例施行規則第一五條第一項第六號ノ土地ノ合併ハ當ニ所有者ノ意思ニ依リテノミ之ヲ爲スト雖モ其分割ハ或ハ所有者ノ意思ニ依リ或ハ所有者ノ意思ヲ須クセシメ之ヲ爲スモノナル

コト既ニ説明シタル如シ而シテ所有者ヲシテ土地分合ノ申告ヲ爲ナシムルハ其意思ヲ以テ之ヲ爲シタル場合ニ限ルヘキハ勿論ナルヲ以テ施行規則第二條ニ依リ所有者ノ意思ヲ問ハスシテ土地ヲ分割スル場合ニ於テハ所有者ハ申告ヲ爲スヲ要セザルモノナリ

七 土地ノ所有者又ハ買取主其住所氏名ヲ變更セザルトキ(明治二十二年大藏省令第六號土地臺帳規則施行細則第二條)土地ノ所有權ノ移轉又ハ買入ハ登記所ノ通知ニ因リテ之ヲ土地臺帳ニ登錄スヘキモノナルカ故ニ(不動産登記法第一條第一項土地臺帳規則第三條)土地臺帳規則施行細則第五條所有者又ハ買取主ヨリ更ニ之ヲ稅務管理局長ニ申告セシムルノ必要ナシト雖モ其住所又ハ氏名ヲ變更シタル場合ニ於テハ之ヲ申告セシムルニアラザレハ稅務官廳ハ之ヲ知ルノ途ナキヲ以テ此場合ニ限リ特ニ之カ届出ヲ爲スヘキコトヲ定メタルナリ

附記一ヨリ七ニ至ルノ場合ニ於テ申告者ハ其申告スヘキ事項ニ應シ其實事ヲ明瞭ナラシムルコトヲ期シテ届出ヲ爲スヘキハ勿論ナリト雖モ其地價ノ設定

又ハ修正ヲ要スル場合ニ在リテハ近傍類地ト地力ヲ比較シ相當ト認ムル地位等級ヲ見積リ之ヲ申告書中ニ記載シ且ツ土地ノ測量圖ヲ添附シテ提出スヘキモノトス(地租條例施行規則第一五條第二項)元來土地ノ丈量及ヒ地價ノ査察ハ地租條例ニ依リ政府當然其職權ヲ有スト雖モ多數ノ土地ニ付キ一當該官吏ニ於テ丈量及ヒ査察ヲ爲ストキハ事務ノ進捗大ニ遲延スヘキハ勿論所有權者ハ爲メニ屢立會ヲ爲ス等ノ煩ヲ免レス特ニ當該官吏ノ職權ヲ以テ査察シタル地價ハ時ニ所有者ノ見込ム所ト大ニ異ナル所アリ其間圓満ナル結果ヲ得難キコトナキニアラス故ニ施行規則ハ所有者ニ命スルニ測量圖ヲ提出ヲ以テシ當該官吏ヲ對テ實地丈量ノ結果所有者ノ提出シタル測量ハ精確ナルモノナリトノ心證ヲ得タルトキハ一並ノ丈量ニ依テ他ノ實地丈量ヲ省略シ以テ事務ヲ進捗ヲ計ルノ便ヲ得セシメ且ツ所有者ヲシテ常ニ設定又ハ修正スヘキ地價ノ見込ヲ申出ヲ以テ當該官吏ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得セシメタルナリ予ハ前ニモ論シタル如ク土地ノ分合ヲ爲シタル場合ニ於テ其新區域ニ對シ地價ヲ附スルハ地價ノ設定ニ外ナラスト爲ス者ナルカ故ニ土地ノ合併又ハ分割ヲ申告スル場合

四 於之モ亦施行規則第五條第二項適用應ラ者州ノ信及又地價ノ
復舊ノ地價ハ設定スルモ爲者ナリ以テ荒地免租年期開及前低價年
期ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ測量圖等々之ヲ要セタルモノナリト信ス
丙 市區町村長又ハ戸長ニ申告スルモ爲者又ハ測量圖等々之ヲ要
地租ヲ納ム者其土地所在地ノ市區町村内ニ住所又ハ居所有セザル
地租ニ關スル事務ヲ管理セザルモ爲者其市區町村内ニ現ニ住居スル者ヲ納税
管理人ト爲シ其市區町村長又ハ戸長ニ申告スルモ爲者又ハ測量圖等々
第一六條 地租ヲ各納人ヨリ徵收スルコトハ市區町村ノ事務ナリ以テ市區
内ノ土地ニ付キ地租ヲ納ムヘキ者其市區町村内ニ住所又ハ居所有セザル
ハ市區町村ハ地租徵收上ニ便宜ヲ缺クコト爲カラス故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ
納税管理人ヲ定メシメ其者ヲシテ本人ニ代リテ地租納付ヲ取扱フ爲ナシムヘ
キモノト爲シ豫メ其人ヲ指定シテ申告スヘキモノト爲シタルナリ施行規則第
十六條ノ所謂地租ヲ納ムヘキ者トハ所有權主共ニ之ヲ指シモノニシテ同
條ノ用語中ニ其所有土地所在地ナル文字アルノ故ヲ以テ之ヲ單ニ所有者ノ

ヲ指シタルモノト解スヘカラス

第七款 土地臺帳

租税ノ賦課徵收スルニハ相當ノ帳簿ヲ備ヘ其課額及ヒ納否ヲ明瞭ナラシメ
ルヘカラス地租ニ關シテモ亦勅令又ハ訓令ハ種種ノ帳簿ヲ設クヘキコトヲ命
シ以テ之カ賦課徵收ノ用ニ供スト雖モ其中ニ就キ最重要ナルモノヲ舉クレ
ハ先ヲ指テ土地臺帳有租地集計簿地租名寄帳ノ三者ニ屬セタルヘカラス土地
臺帳ハ之ヲ稅務署ニ備フルモノニシテ地圖ト相待テ土地各筆ノ現狀ヲ明ニシ
地租負擔ノ基礎ヲ定ムルモノナリ有租地集計簿及ヒ地租名寄帳ハ其ニ土地臺
帳ニ依リテ調製シタルモノニシテ前者ハ之ヲ稅務署ニ備ヘ毎納期市町村ノ徵
收スヘキ地租總額ヲ之ニ通知スルノ根據ト爲ルモノニシテ後者ハ之ヲ市町村
ニ備ヘ毎納期納稅義務者ノ納ムヘキ地租額ヲ之ニ告知スルノ根據ト爲ルモノ
ナリ地租ヲ賦課徵收スルニハ三者其一ヲ缺クヘカラスト雖モ而モ地租算出ノ
根基タル地價ハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フモノニシテ地租條例第一條且

土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄スルモノナリ(明治二十二年勅令第三十九條)土地臺帳規則第一條地租ニ關スル事項トハ稻ヤ稈然タルヲ以テ土地臺帳規則施行細則明治二十二年大藏省令第六號第一條ハ之カ細目ヲ舉ケ土地臺帳ハ市町村毎ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價地租所有者及ヒ買取主ノ住

所氏名ヲ登錄スヘキコトヲ定メ明治二十二年大藏省訓令第四十九號ハ更ニ其様式ヲ左ノ如ク定メタリ

[illegible]

(イ) 内歩欄ニハ一筆ノ土地中其地ニ付シタル地目ト異ナリタル狀態ヲ呈スル土地ヲ包含スル場合ニ於テ其歩數及ヒ名稱ヲ記入スヘキモノナリ例ヘハ田畑中ニ三步ノ岩敷ヲ包含スルトキハ内部ノ欄ニ三步ト記シ名稱ノ欄ニ岩敷ト記スルカ如シ

(合) 名番欄ニハ「筆中反別欄」ニ記入シタル反別以外ニ稍々地面ノ形狀ヲ異ニスル土地アル場合ニ於テ其步數及ヒ名稱ヲ記入スヘキモノトス例ヘハ本地反別ノ外畦畔十歩アルトキハ外步欄ニ十歩ト記シ名稱欄ニ畦畔ト記スルカ如シ地租條例施行規則發布前ニ於テハ田畑ニ限りテハ畦畔反別ヲ除キ其反別ヲ定ムル輯親ナリシヲ以テ田畑ニハ總テ畦畔ナル外書地アリト雖モ地租條例施行規則ノ發布ニ因リ畦畔ヲ除キ丈量スルノ特例ノ廢止ヲ以テタルヲ以テ主地ハ總テ其

經界ヨリ次第ニ決メテ其ノテ陳隨テ外歩欄ニ記入スル事項ヲ殆シキ之ヲナシ
 置テヲタルモノナリ市町村目録計測土地權限ノ明定ヲ得ルモノナリ
 (一) 沿革欄ニ土地目變換開墾荒地地成分割合併等其地總テ土地異動ノ
 事實ヲ記入スルモノナリ土地ノ反對地價地租等ノ變更ノ土地其物ノ異動ニ
 アラナル其事由ハ亦之ヲ沿革欄ニ記入スルモノナリ沿革欄ハ十式簿ニ
 (二) 事故欄ニ所有權又ハ賃權ヲ取得若クハ消滅アルモノ旨ヲ記入スルモノ
 ナリ所有權又ハ賃權主ノ住所氏名ヲ變更アル場合ハ於テモ亦其旨ヲ事故
 欄ニ記シ然レバ後^{所有}買取主住所欄又ハ^{所有}主氏名欄ニ新住所又ハ新氏名ヲ記入ス
 ル事ニナリ
 第三條 市町村目録計測土地權限ノ明定ヲ得ルモノナリ
 第二條 土地臺帳所管官廳ニ於テ土地臺帳簿ニ於テ五ノ區ニテ
 土地臺帳規則第二條ハ市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡
 役所ニ於テ之ヲ設テ其事務ヲ取扱フベキニテ其爲ス土地臺帳規則ヲ發布セ
 ルヲ常時ニ於テハ市ノ地租事務ハ府縣廳ニ於テ町村ノ地租事務ハ島廳郡役
 所ニ於テ之ヲ取扱フタルヲ以テ土地臺帳モ亦府縣廳及島廳郡役所ニ於テ之

ヲ所管セシムルモノト爲シタルモノナリ然ルニ爾後官制ヲ改メ地租事務ハ市ト町村トノ區別ナク總テ直稅分署ニ於テ之ヲ取扱フヘキト爲シタルヲ以テ土地臺帳規則第二條中ニ規定シタル府縣廳及ヒ島廳郡役所ノ職權ハ自ラ直稅分署ニ移ルニ至リ尋テ兩度ノ官制改正ニ因リ直稅分署間稅分署ハ合併シ收稅署ト爲リ更ニ稅務署ト改稱シタルヲ以テ土地臺帳規則ハ改正ヲ經タルモ官制改正ノ結果現今ハ稅務署ヲ以テ土地臺帳所管應ト爲ナタルヲ得ナルニ至リタルヲ以テ然レバ舊規則及ヒ新規則ニ對シテ應テ改定スルモノハ未ダ有ラズ

土地臺帳規則第二條ハ獨リ土地臺帳ノ所管應ヲ定メタルノミナラズ同時ニ該規則ニ於テ稱スル土地臺帳ナルモノハ府縣廳及ヒ島廳郡役所ニ設ケル所ノモノノミヲ指スコトヲ定メタルモノナリ故ニ明治十七年大藏省第八十九號達ニ依リ當時市町村役場ニ備ヘタル土地臺帳ナルモノハ其市町村內ニ於ケル土地ノ沿革及ヒ反別地價地租等ヲ明ニスルモノナレバ以テ市町村ハ依然之ヲ維持整理ニ力メ之ニ依リテ市町村自治行政上諸般ノ便宜ヲ得ンコトヲ期スヘキハ勿論ナリト雖モ明治二十二年勅令第三十九號土地臺帳規則ノ所謂土地臺帳ハ

アラナルヲ以テ該規則及ヒ該規則ニ本キ制定セラレタル土地臺帳規則施行細則カ土地臺帳ニ付キ規定シタル所ニ市町村ニ設備スル土地臺帳ニ適用セラレルモノニアラナルナリ

第三條土地臺帳登錄手續ニ關シテ舊規則及ヒ新規則ニ對シテ應テ改定スルモノハ未ダ有ラズ

土地臺帳ナルモノハ舊規則及ヒ新規則ニ對シテ應テ改定スルモノハ未ダ有ラズ

登記ノ土地ニ付テハ所有權ヲ證明スヘキ重要ナル材料ト爲ルモノナレバ以テ其實地トハ符合ヲ保フコトニハ最も心ヲ用ヒタルヘカラス外國ノ例ニ於テハ土地臺帳ノ維持整理ノ爲メニ法令ヲ以テ細密ナル規定ヲ爲スモノアリ雖モ我邦ニ於テハ土地臺帳ノ登錄ニ關シテハ法令ヲ以テ規定スル所甚タ少シ故ニ大體ニ於テハ當該官吏ハ精確ナル材料アリタルトキニ依リテ土地臺帳メ登錄ヲ爲スヘキモノナリト謂フノ以上ニ出ヅルコト能ハス然レトモ如何ナル帳簿ト雖モ之カ記入ハ精確ノ材料ニ依ルヘキハ當然ニシテ獨リ土地臺帳ニ限ルモノニアラズ故ニ今少シ事實的ニ之ヲ述ブルコトトセハ當該官吏ハ土地ニ關スル異動ニシテ地租事務ニ關聯スルモノニ付テハ凡ソ左ノ如キ手續

ヲ以テ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スルモナリ計開フコトヲ得ルハ其ノ旨ニ依リて之ヲ行フ事
イ官廳ニ於テ公示スルモノハ其公示ノ本官廳ニ於テ指定スルモノハ其指定
ヲ爲シタル官廳ノ通知ニ本官廳臺帳ノ登錄ヲ爲スヘキモノトモ限ラズ
ロ稅務管理局長ノ許可ヲ要スルモノハ其許可ニ依リ稅務官廳以外ノ官廳ノ
許可ヲ要スルモノハ其許可ヲ爲シタル官廳ノ通知ニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲ス
ヘキモノトモ限ラズ
（一）法律又ハ命令ニ於テ稅務官廳ニ申告スヘキモノト爲シタルモノハ其申告
ニ依リ土地臺帳登錄ノ手續ヲ爲スヘキモノトモ限ラズ
（二）法令ニ於テ申告スヘキコトヲ定メタルモノモ所有若又ハ買取主ノ申告シタル
所ニシテ事實ト符合スルモノハ其申告ニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スヘキモノ
所有權ノ取得若クハ移轉及ヒ質權ノ設定移轉若クハ消滅ニ付テハ相續ニ因ル
場合ノ外ハ申告ノミニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スコトヲ得タルモノトモ土地
臺帳規則施行細則第五條是レニ依リ成ルヘキ土地臺帳ノ登記簿ノ抵觸ヲ避ケ
ントスルニ出テハ事實所有權ノ移轉アル場合ニ於テ移轉ノ登記ヲ爲ス事

（三）所有權保存ノ登記ヲ爲シ以テ所有權取得ニ付キ定メラレタル登録稅ヲ免レ
ントスル者ヲ防クノ意ニ出テタルモノナルヘシ
（ホ）所有權ノ取得若クハ移轉質權ノ設定移轉若クハ消滅及ヒ未登記ノ土地ノ
所有權保存登記ハ登記所ヨリノ通知ニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スヘキモノトモ
登記法第一一條土地臺帳規則第三條明治二十二年司法省令第三號（土地臺帳規則）
（ニ）申請又ハ申告スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササルトキ土地臺帳ニ記載漏ノ土
地アルトキ申請又ハ申告スヘキコトヲ定メタル有租地成又ハ免租地成アリタ
ルトキ若クハ土地臺帳ノ記載ニ誤謬アルトキ當該官吏之ヲ發見シタル場合ニ
於テハ其實確實ナルモノニ限り事實ニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スヘキモノハ
ナリ
當該官吏以上舉クル所ニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ爲スニ當リテハ其事項ニ依リ
地租事務上當然起ルヘキ地ノ事項ニシテ土地臺帳ニ記載スヘキモノハ其職責
ヲ以テ併セテ登錄セサルヘカラサルモノナリ例ヘハ山林ノ一部保安林
ニ編入セラレタルノ告示ナリタルモノ保安林編入ノ旨ヲ土地臺帳ニ登錄ス

ル前ニ於テ先ツ其部分ノ分割ヲ登錄セラルヘカラス又例ヘハ地目變換ノ届出アリタルトキハ之ニ依リテ地目ノ登錄ヲ爲スヘキハ勿論地目變換ニ伴フ法律上ノ效力タル地價修正ヲ爲シタルトキ其結果ヲモ登錄スルコトヲ要ス故ニ當該官吏ハ土地ニ關スル異動ニシテ地租事務ニ關聯スル事項ニ付テハ常ニ官廳ノ告示又ハ通知所有者又ハ買取主ノ申請申告及ヒ實地ノ狀況等ニ注意シ遺漏ナカラシコトヲ期スヘキハ勿論一旦精確ナル材料ヲ得タルトキハ之ニ關聯シテ土地臺帳ニ登錄スヘキ事項ハ一モ之ヲ遺テタルコトニハ最も意ヲ用ヒタルヘカラス

第四 土地臺帳ノ謄本請求
土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付キ金二錢ヲ割合ヲ以テ手数料ヲ納メ土地臺帳所管廳タル稅務署ニ請求スルトキハ之カ交付ヲ受クルコトヲ得ヘシ土地臺帳規則第四條ハ「土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ之ヲ廣ク規定シタルヲ以テ所有者買取主ノ之ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ勿論土地臺帳ノ謄本ヲ入用トスル者ハ其土地ニ付キ何等ノ權利ヲ有セサル者ト雖モ之カ請求ヲ爲スコト

ヲ得ルモノナリ謄本請求ノ手数料ハ現今印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘキモト定メラレタルヲ以テ請求者ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ請求書ニ貼付シテ之ヲ提出スヘキモノトス
遠隔ノ地ニ在ル者ハ郵便ヲ以テ土地臺帳ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得ヘシ然レトモ元來謄本ノ請求ハ稅務署ニ申出テ之カ交付ヲ受クルヲ本則トスルモノナルヲ以テ郵便ヲ以テ請求スル者ハ謄本送付ニ要スル通信料ヲ負擔セラルヘカラス故ニ此場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送付セラルルコトヲ望ム者ハ書留郵便料普通郵便ヲ以テ送付セラルルコトヲ望ム者ハ普通郵便料ニ相當スル郵便切手ヲ請求書ト共ニ添送スルコトヲ要スルモノトス

第八款 改良地ニ關スル特例

地租ヲ課セス又ハ之ヲ免シタル土地ニシテ有租地トナリタルトキハ之カ地價ノ設定ヲ要シ有租地ニシテ地目變換地類變換若クハ開墾ヲ爲シタルトキハ地價ノ修正ヲ爲ササルヘカタルニト上來説明シタル所ノ如シ而シテ地價ノ設

定又ハ修正ヲ爲ス場合ニ於テハ地租條例第十三條第四項ニ依リ素地相當ト認
ムル地價ヲ定ムヘキ場合ノ外ハ總テ其地ノ現況ニ依リ所得ヲ審査シ之ニ依リ
テ其地價ヲ定ムヘキコト亦既ニ述ベタル所ノ如シ此原則ハ土地改良ノ爲メ其
區畫形狀ヲ變更スル場合ニ於テ其特例ヲ見ルモノナリ明治三十年法律第三十
九號ニ依レハ此ノ如キ土地ニ付テハ現地價ノ合計額ヲ毎筆相當ニ分配シテ其
地價ヲ定ムヘキモノトス該法律ノ規定ハ用語簡短ニシテ稍ヤ盡テナルモノア
ルカ如シト雖モ該法律ノ制定セラレタル所以ノ趣旨カ目下我邦ニ於ケル土地
ノ狀態ヲ改良シ其生産力ヲ増加シ又ハ之カ生産費ヲ節減セシトスル事業ヲ獎
勵スルカ爲メ若クハ少クモ之ニ支障ヲ與ヘサルカ爲メ改良シタル土地ノ地
租ハ之ヲ從前ノ地租ヨリ重キコトナカラシメ其改良事業ニ伴フテ土地臺帳ニ
登錄スル事項ニ付テハ登録稅ヲ徵收セサルニ在リシヨリ見レハ該法律ノ規定
ハ原則ニ對シ左ノ點ニ於テ例外ヲ爲スモノト謂ハサルヘカラス

(イ) 改良事業ノ爲メ地租ヲ課セス又ハ之ヲ免ルタル土地ヲ有租地ト爲シ若ク
ハ有租地ノ地面ノ狀態ヲ變更スルニ至ルモ地價ハ設定又ハ修正ヲ爲サズ隨テ

地目變換地租變換開墾等ノ手續ヲ爲スニ要セス明治三十年法律第三十九
號ハ此事ヲ明言セズ雖モ改良事業ニ伴フ土地狀態ノ變更ニ付キ一、地租條例
ノ定ムル所ニ依リ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲スヘキモノト見セハ改良地ノ地價合
計額ヲ從前ノ地價合計額ト同一ナラシムヘキモノト爲タル法律ノ趣旨
ハ殆ト無意義ノモノト爲ルヘシ此ノ如キハ法文解釋ノ當リ得タルモノニアラ
ズ特ニ明治三十年法律第三十九號第三項ハ改良若手前ニ地目變換地租變換開
墾等ヲ爲シタル土地アル場合ニ付テ之カ詳細ノ規定ヲ設ケシルニモ拘ラス改
良若手中ノ土地狀態變更ニ付テハ何等ノ言ヲ爲サザリシヲ以テ見ルモ改良ニ
伴フ土地狀態ノ變更ハ法律ハ之ヲ以テ地目變換開墾等ト看做ササルノ精神ナ
ルコト推知スルニ足ルベシ

(ロ) 改良事業ノ爲メ土地ノ區畫ヲ變更スルモ分合筆ノ手續ヲ爲スコトヲ要セ
ズ地租條例施行上分合筆ノ届出ヲ爲サシムルハ之ニ依リテ各筆ノ地價ヲ定ム
ルノ手續ヲ爲スカ爲メナリ然レニ改良地ノ地價ハ改良後ノ區域ニ本邦政府
於テ相當配賦ヲ爲スモノニシテ之カ爲メ明治三十年大藏省令第十九號第二項

ハ事業成功シタルトキ改良規畫者ヲシテ各筆ノ區域ヲ豫定シ其假定地價ヲ記載シタル書面ニ地圖ヲ添附シテ稅務管理局長ニ届出テシムルカ故ニ稅務管理局長ハ之ニ依リテ地價ノ相當配賦ヲ爲スコトヲ得ヘク特ニ分合筆ノ届出ヲ爲サシムルノ要ナシ明治三十年法律第三十九號ノ施行規則タル該省令カ此場合ニ付テ特ニ届出ノ手續ヲ定メタルハ則チ反面ニ於テ改良地ノ場合ニ於テハ分合筆ノ手續ヲ爲スニ及ハサルコトヲ定ムルモノト謂ハサルヘカラス但シ一筆ノ一部ヲ改良施行部分ニ入レ他ノ一部ハ之ヲ改良施行ノ範圍外ニ置ク場合ニ於テハ改良著手前之カ分割ヲ爲スヲ要スヘキハ論ヲ俟タス

(二) 改良地每筆ノ地價ヲ定ムルニ其地ノ現況ニ依リ所得ヲ審査シ之ニ依リテ地價ヲ評定スヘキモノニアラスシテ改良ヲ施行シタル範圍内ニ於ケル從來ノ地價ヲ合計シ之ヲ相當ニ分配スヘキモノトス但シ相當ナル分配ヲ爲サントセバ勢ヒ實地ノ情況ニ依リ其所得ヲ審査シ之ニ應ジテ配賦スヘキ地價ヲ定ムルヘカヲナサルカ故ニ所得審査ノ原則ハ此場合ニ於テモ亦其適用アルモノナリト雖モ每筆ノ所得ニ依リ直チニ地價ヲ評定スルニアラスシテ從來ノ地價總額

廳ノ辭令書又ハ許可書ノ曆本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
 日一 新舊族稱ニ關スル事
 二 族稱變更ノ原因
 三 族稱變更ノ辭令又ハ許可アリタル年月日
 前項ノ届出ハ其者カ戶主ナルトキハ其者ヨリ之ヲ爲スコトヲ要シ其者カ家族
 ナルトキハ戶主ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス(以上戶第一六五條第一一六六條)
 (注意) 戶籍法第百六十五條ニハ華士族ノ稱ヲ失ヒタル者ハ中略之ヲ届
 出ツルコトヲ要ストアルカ故ニ戶主カ隱居其他ノ事由ニ因リ戶主タル地位
 ヲ去リタル爲メ華士族ノ稱ヲ失ヒ家督相續人カ其族稱ヲ承繼スヘキ場合ニ
 於テモ尙ホ本文ノ届出ヲ爲スヘキモノノ如シ然レトモ同條ニ華士族ノ稱ヲ
 失ヒト謂フハ家督相續人カ其族稱ヲ承繼スヘキ場合ヲ包含セザルコトハ同
 法第百六十六條ノ趣旨ニ徴シ明白ナリ
 (四) 戶籍法第百六十六條ニハ前條ノ規定ハ分家廢絶家再興中略ニ因リテ族
 稱ヲ失ヒタル者ニハ之ヲ適用セズト規定シアリ然レトモ戶主カ其地位ヲ去

戶籍法

身分登記 身分ニ關スル届出 氏名及ヒ族稱ノ變更ニ關スル届出

第二十一節 身分登記變更ニ關スル届出

一節ノ規定ヲ説明スヘシ同節ニ所謂身分登記ノ變更トハ變更ナル文字ノ通常ノ用語例ニ異ナリ身分登記ヲ訂正追加又ハ一部ノ抹消ノミナラス其全部ノ抹消ヲモ包含スルモノナリトハ(元)ノ第九ニ於テ之ヲ説明シタリ

戸籍法第四章第二節乃至第二十節中ニハ身分登記抹消ノ申請ニ關スル規定アリ例ハ棄兒引取ノ場合ニ於テ第七十六條、父ヲ定ムル判決確定ノ場合ニ於

ケル第七十三條第二項婚姻ノ無效若クハ取消ノ場合ニ於ケル第百五條第百六
條隱居ノ取消ノ場合ニ於ケル第百二十二條失踪ノ宣告取消ノ場合ニ於ケル第
百三十四條家督相續人指定ノ取消ノ場合ニ於ケル第百四十三條等ハ如キ是ナ
リ月籍法ニテハ之ヲ登記取消ノ申請ト謂フ要スルニ此等ノ場合ニ在リテハ月
籍法第四章第二節乃至第二十節ニ特別ノ規定アルニ因リ抹消ノ申請ヲ爲スヲ
要スル義務アルモノニシテ其申請ヲ爲スベキ義務者モ亦特定セラルル之ニ反シ
テ本節ニ掲タル身分登記ノ變更ハ之ヲ求ムルト求メサルトハ其者ノ隨意ナル
モ之ヲ求メント欲スルニ於テハ本節ニ掲タル手續ニ從フコトヲ要スルニ過キ
ス

戸籍法第四章第二節乃至第二十節中身分登記變更ノ申請ニ關スル規定アリ續
 出子否認ノ裁判確定ノ場合ニ於ケル第七十九條ノ如キ是ナリ此種ノ申請ハ本
 節ニ揭クル申請ト其名稱ヲ同シ文スト雖モ戸籍法第四章第二節乃至第二十節
 ニ掲ケタル特別ノ規定ニ依リ特定ノ人ハ其申請ヲ爲スヲ要スル義務ヲ負フモ
 トハ登記取消ノ申請ニ於ケルト相同シ隨テ此種ノ變更ノ申請ニ付テモ亦戸籍

法第二十一節ノ規定ニ依ルヘキ限ニ在ラスニ在リテ登記目録ニ爲シタル記載ハ身分登記ト同一ノ性質ヲ有シ登記目録ヲ謄ケナリシ地方ニ於ケル戸籍ノ記載ハ身分登記ト同一ノ性質ヲモ併有スルモノタリ故ニ戸籍法實施以前ニ爲シタル此種ノ記載ヲ變更スルニ付キテモ亦戸籍法第二十一節ノ手續ニ從フコトヲ要スルモノトス

(三)届出人又ハ登記事件ノ本人ヨリ申請スル手續 既ニ爲シタル或身分登記ノ全部又ハ一部カ真正ノ事實ト異ナルトキ又ハ其登記ニ遺漏アルトキハ其登記ノ届出人又ハ登記事件ノ本人ハ以下ニ掲ケル手續ニ從ヒ其登記ノ變更ヲ申請スルコトヲ得登記事件ノ本人トハ例ヘハ生存者ニ付キ誤リテ死亡ノ登記アリタル場合ニ在リテハ死亡シタリトシテ登記セラレタル其者ヲ指ス

(注意) 何人ヨリ身分登記變更ノ申請ヲ爲スヲ得ルヤニ付キテハ戸籍法ニ特別ノ明文ナシ然レトモ届出人及ヒ登記事件ノ本人ヨリ之ヲ申請スルヲ得ルコトハ戸籍法第四十條ノ趣旨ヨリ推知スルコトヲ得(三)及ヒ(六)參照

届出人又ハ登記事件ノ本人ニアラサル者ハ次ノ(三)ノ手續ニ依ルニアラサレハ變更ノ申請ヲ爲スコトヲ得

既ニ爲シタル身分登記ノ届出人又ハ其登記事件ノ本人カ其登記ノ變更ヲ求メント欲スルトキハ原登記(其既ニ爲シタル登記ヲ指ス)ヲ爲シタル戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(戸第一六七條)

(注意) 此許可ヲ求ムル申立ハ非訟事件ナル故ニ其手續ニ付キテハ非訟事件ニ關スル通則タル非訟事件手續法第一編總則ノ規定ニ從ハサルヘカラス隨テ其申立ニハ同法第九條ノ事項ヲ記載スヘク又其裁判ハ決定ノ方式ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要シ(非訟事件手續法第一七條其裁判ハ之ヲ受クル者即チ届出人ト登記事件ノ本人トニ告知スルニ依リテ其效力ヲ生スルモノトス)

(同法第一八條)

區裁判所ノ許可ノ裁判カ效力ヲ生シタルトキハ許可ヲ求メタル者ハ裁判カ效力ヲ生シタル日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ登記變更ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一六八條)

第一 原登記ノ件名及ビ年月日
第二 變更スヘキ事項
(三) 他人ヨリ申請スル手續 既ニ爲シタル或身分登記ノ全部若ハ一部カ異
正ノ事實ト異ナリ又ハ其登記ニ遺漏アル場合ニ於テ届出人ニモ登記事件ノ本
人ニモアラサル者カ其登記ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルトキハ其者ハ届出人又
ハ登記事件ノ本人ニ對シ其登記變更ノ申請手續ヲ爲スコトヲ求ムル訴ヲ提起
スルコトヲ得例ヘハ家族カ戸主ノ同意證書ヲ偽造シテ分家ノ届出ヲ爲シ戸籍
吏カ之ニ因リテ身分登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其戸主カ届出人ニ對シ分家ノ
登記抹消ノ申請手續ヲ爲スコトヲ求ムル訴ヲ提起スルカ如キ是ナリ
(注意) 此訴ニ付キテハ普通ノ民事訴訟ノ手續ニ從テ之ルヘカラス婚姻事件
等ニ關スル民事訴訟手續法ノ如キ特別ノ規定アルコトカシ
前項ノ訴ニ於テ原告勝訴ノ判決アリテ其判決ヲ確定シタル後ハ其原告ハ判
決ヲ確定シタル日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ
登記變更ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス戸籍第一六九條此申請ハ其判決ノ執行トシテ

之ヲ爲シタルモノヲタリ

第二 原登記ノ件名及ビ年月日
第三 變更スヘキ事項

(三) 登記取消又ハ變更ノ登記ニ付キテノ變更ノ申請 原登記取消又ハ變更ノ登
記ヲ訂正シ若クハ追加セントスルトキ又ハ之ヲ削除シテ原登記ヲ回復セント
スルトキモ亦前(三)又(四)ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三編 戸籍

第一章 戸籍

(三) 戸籍 戸籍トハ日本人カ組成シタル一戸即チ一家ニ付キ其戸主及ビ家族
ノ本籍地家ニ於ケル關係親族關係ヲ記載シタルモノヲ指シテ戸籍簿ハ一部タル
モノノ第一七〇條第一七五條ヲ云フ戸籍ハ戸籍吏ノ管轄區域内ニ本籍ヲ定メ
タル者ニ付キ戸籍吏之ヲ編製ス戸籍第一七〇條
身分登記ト戸籍トハ關係ニ付キテハ(元)ヲ参照スルニ付日本ノ國

(注意) 本籍ト家屋ノ所在地又ハ住所若クハ居所トヲ混同セサルコトヲ要スル
戸籍法實施以前ニ在リテハ本籍ヲ表示スルニ或ハ何番地ト謂ヒ或ハ何番邸ト
謂ヒ或ハ何番屋敷ト謂ヒ或ハ何番戸ト謂ヒ地方ニ依リ區區ニシテ一定セサリ
キ然レトモ戸籍法實施以後ニ在リテハ本籍ハ地番號ヲ以テ之ヲ表示スルコト
ヲ要スルモノトス(戶第一七一條第一項)ハ本籍地番號ヲ問はず、
家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ノ本籍地ハ當然前戸主ノ本籍地ト同一ナ
リ但其者ハ他ノ地ニ其本籍ヲ轉スルコトヲ妨ケス

分家廢絶家再興離籍復籍拒絶其他ノ事由ニ因リ新ニ一家ヲ立テタル者ハ任意ニ本籍地ヲ定ムルコトヲ得

(注意) 廢絶家再興ニ因リ一家ヲ立テタル者ノ本籍地ハ當然廢絶家最終ノ戸

地主ノ本籍地ト同一ナラズニアラスル地主ハ其本籍地ニ從テ家族ハ戶主ノ本籍地ト異ナリタル地ニ其本籍ヲ定ムルコトヲ得得又戶主カ轉籍シタルトキハ家族モ亦當然轉籍ス轉籍ヲ爲シ又ハ新ニ本籍ヲ定ムルニ其土地ノ所有者ノ承諾又ハ同意ヲ得ルコトヲ要セス

大英欽定四庫全書

〔戸籍簿〕戸籍簿ニ本籍地ノ地番號ノ順序ニ從ヒ戸籍吏之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス月第一七一條第一項此帳簿ヲ戸籍簿ト謂フ編輯ノ順序ハ戸籍吏之ヲ爲ス月籍吏ノ管轄内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二箇以上ノ區畫アル場合ニ於テ其區畫ノ順序ハ戸籍吏之ヲ定ム月同條第二項二頁ハ戸籍簿編輯ノ順序ハ戸籍吏之ヲ定ム〔注意〕(4) 各別ニ地番號ヲ附シタル二箇以上ノ區畫アル場合ハ例ヘテ神田區戸籍吏ノ管轄區域内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル錦町小川町今川小路等

二 戸主ノ族稱及ヒ本籍地但家族カ族稱ヲ有スル場合ニ於テハ家族ニ付キ
其族稱ヲ記載スルコトヲ要ス
三 戸主及ヒ家族ノ出生ノ年月日
四 戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日但出生ニ因リテ家族ト爲リタ
ル者ニ付キテハ此記載ヲ要セス

五 戸主並ニ家族ノ父母ノ氏名及ヒ其父母ト戸主又ハ家族トノ續柄
六 戸主ト前戸主トノ續柄及ヒ家族ト戸主トノ續柄但家族ノ中他家ヨリ入
リテ他ノ家族ノ配偶者ト爲リタル者又ハ他ノ家族ヲ經テ戸主トノ親族關
係ヲ有スル者ニ付キテハ其者ト戸主トノ續柄ノ外他ノ家族トノ續柄ヲ記
載スルコトヲ要ス

(注意) 他ノ家族ヲ經テ戸主トノ親族關係ヲ有スル者トハ他ノ家族ノ養子
ト爲リタル爲メ戸主ノ親族ト爲リタル者ノ如キヲ謂フ

七 他家ヨリ入りテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付キテハ其原籍地原籍ノ
戸主ノ氏名族稱及ヒ其戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄

八 他家ヨリ入りテ家族ト爲リタル者ニシテ他ノ家族トノ親族關係ヲ有

スル者ニ付キテハ其者ト他ノ家族トノ續柄
(注意) 戸主ノ妻ノ四親等以上ノ血族ニシテ民法第七百三十八條ノ規定ニ

依リ家族ト爲リタル者ノ如キヲ謂フ
九 戸主又ハ家族ノ身分ノ變更及ヒ其原因並ニ年月日
十 後見人アル者ニ付キテハ後見人ノ氏名住所及ヒ後見人ノ就職並ニ任務
終了ノ年月日

戸主及ヒ家族ノ氏名ヲ戸籍ニ記載スルニハ左ノ順序ニ依ル(戸第一七七條第一
項)

- 第一 戸主
- 第二 戸主ノ直系尊屬
- 第三 戸主ノ配偶者
- 第四 戸主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者
- 第五 戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者

第六 戸主ノ親族ニ非ナル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス(同條第二項)

直系尊屬直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者ハ親族間ノ順位ニ依リ親族間ノ順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ其順位ヲ定ム(同條第三項)前二項ハ戸主ノ親族ニ非ナル者ノ記載ニ之ヲ準用ス(ヘキモノトス)(同條第四項)

(注意) (イ) 茲ニ所謂直系尊屬直系卑屬傍系親ハ血族ト姻族トヲ含ム

(ロ) 親族間ノ順位トアルハ社交上ニ於ケル尊卑ノ順序ヲ謂フ(佐賀地方裁判所長問合ニ對スル明治三十二年十二月十四日附民刑局長回答參照故ニ例)

ハ戸主ノ父ト戸主ノ配偶者ノ父トノ間ニ在リテハ等シク尊屬ノ一等親ナルモ第三項ニ依リ戸主ノ父ハ戸主ノ配偶者ノ父ヨリモ先ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

(ハ) 戸主ノ直系卑屬ノ配偶者及ヒ戸主ノ傍系親ノ配偶者ハ戸主ノ親族ナルコトアリ戸主ノ親族ニアラサルコトアリ例ヘハ戸主ノ三親等以內ノ直系卑

屬タル血族ノ配偶者又ハ三親等以內ノ傍系親タル血族ノ配偶者ハ戸主ノ三親等以內ノ姻族ナルカ故ニ戸主ノ親族ナルモ戸主ノ四親等以外ノ直系卑屬タル血族ノ配偶者又ハ四親等以外ノ傍系親タル血族ノ配偶者ハ戸主ノ四親等以外ノ姻族ナルカ故ニ戸主ノ親族ニアラズ(民法第七二五條)

戸主ノ直系卑屬ノ配偶者又ハ戸主ノ傍系親ノ配偶者ハ戸主ノ親族ニアラサルコトキト雖戸籍法第七十七條第一項第六號ノ順位ニ依ラス同項第四號又ハ同項第五號ノ順位ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ要ス(同條第七二五條)又次ニ戸主ノ直系卑屬ト其配偶者トノ間戸籍法第七十七條第一項第四號ニ在リテハ兩者ヲ同順位ニ置ク又ハ戸主ノ傍系親ト其配偶者トノ間同項第五號ニ在リテハ兩者ヲ同順位ニ置クニ在リテハ夫ハ妻ヨリモ親族間ノ順位優ルカ故ニ戸籍法第七十七條第三項ニ依リ夫ヲ妻ヨリモ先ニ記載スルコトヲ要ス(ルモノトス)

戸籍吏カ戸籍ニ關スル届出次ノ第四章參照ヲ受理シタルトキ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ通潘ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス戸籍百九十

一條ニ依リテ(戸第十八條準用)而テ、
戸籍吏カ身分登記ヲ爲シタルトキ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ
本節ニ説明スル手續ニ從ヒ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一七八條)

(注意) 戸籍ハ本籍地ノ戸籍吏之ヲ作ルヘキモノナリ戸第七〇條隨テ本籍
ニ關係ナキ地ノ戸籍吏カ身分登記ヲ爲シタルトキノ如キハ其戸籍吏ハ戸籍
ノ記載ヲ爲スヘキ限ニ在ラス故ニ例ヘハ甲地ニ本籍ヲ有スル者カ嫡出子ヲ
出生シタル場合ニ於テ乙地ノ戸籍吏ニ出生ノ届出ヲ爲シ乙地ノ戸籍吏カ出
生ノ身分登記ヲ爲シタルトキト雖其戸籍吏ハ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキニアラ
ス乙地ノ戸籍吏ヨリ其届書ノ送付ヲ受ケタル甲地即チ本籍地ノ戸籍吏カ出
生ノ身分登記ヲ爲シタル後其戸籍吏カ戸籍ノ記載ヲ爲セハ足ル
戸籍ノ記載ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用ヒス字畫明瞭ナルコトヲ要ス年月日
時及ヒ年齡ヲ記スル數字ニハ一二三十ノ字ヲ用ヒスシテ壹貳參拾ノ字ヲ用
ルコトヲ要ス文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタ
ルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戸籍吏之ニ認印

シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀ミ得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス(戸
第九十一條ニ依リテ戸第二十九條準用)

戸籍吏ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコトヲ要ス(戸第九十
一條ニ依リテ戸第三十一條準用)戸籍用紙中ノ一部分ヲ用ヒ盡シタルトキハ掛紙ヲ以テ用紙ニ充ツルコトヲ得
掛紙ヲ爲シタルトキハ戸籍吏ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ
要ス(戸第一九二條)

(注意) 戸籍用紙中ノ一部分ヲ用ヒ盡シタルトキトハ一ノ戸籍中ニ記載シア
ル或一人ニ付キ記載事項多クシテ其事項欄ニ餘白ナキトキノ如キヲ謂フ
戸主及ビ家族ヲ戸籍ニ記載スル順序ハ既ニ前ニ之ヲ説明シタリ(戸第七十七
條ニ規定シタル順序然レトモ一旦戸籍ヲ編製シタル後ニ至リ出生婚姻養子縁
組民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ親族入籍其他ノ事由ニ因リ一人又ハ數人
ヲ新ニ其戸籍ニ入ルヘキトキハ前ニ掲ケタル順序ニ拘ラス其戸籍ノ末尾ニ之
ヲ記載スレハ足ル(戸第一八六條但同時ニ數人ヲ戸籍ニ入ルヘキ場合ニ於テ其

數人間ニ在リタル前掲掲ケタル順序ニ從ハサルハハナラズ
(注意) 例ハハ戶籍ニ戶主ト其弟トヲ記載アル場合ニ於テ戶主カ夫婦養子ヲ
爲シタルトキハ養子ト爲リタル夫婦ハ戶主ノ弟ノ次ニ之ヲ記載スレハ足ル
月第百七十七條ノ順序ニ依ルトキハ第一ニ戶主第二ニ養子ト爲リタル夫婦
第三ニ養子ト爲リタル妻第四ニ戶主ノ弟ヲ記載セサルヘカラス然レトモ養子
ト爲リタル夫ハ養子ト爲リタル妻ヨリモ先ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス
庶幾他家其他ノ事由ニ因リ一月ノ全員ヲ戶籍ヨリ除クヘキトキハ其事由ヲ戶
籍ニ記載シテ其戶籍ノ全部ヲ抹消スルコトヲ要ス月第一八七條)

(注意) 戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ(三四)ニ説明シタル如ク其月籍ヲ月籍簿ヨリ除キ月籍法第百七十三條ノ手續ヲ爲サタルヘカラス(三五)ニ規定シタル如ク死亡離婚離婚分家其他ノ事由ニ因リ一戸内ノ一員又ハ數人ヲ月籍ヨリ除クヘキトキハ其事由ヲ月籍ニ記載シテ月籍中其者ニ關スル部分ヲ抹消スルコトヲ要ス戸第一八七條ニ規定スル如ク(三六)ニ規定スル如ク

(注意) 婚姻、離婚其他ノ事由ニ因リ甲家ヨリ乙家ニ入ルヘキ場合ニ在リテハ

乙家ノ戸籍ニ其者ヲ記載シ甲家ノ戸籍中其者ニ關スル部分ヲ抹消スヘキモ
ノタリ
婚姻離婚養子縁組轉籍其他ノ事由ニ因リ一人又ハ數人ヲ戸籍ニ入ルヘキ場合
ニ於テ入籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カ一ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ
轉属スルモノナルトキ例ヘハ甲戸籍吏ノ管轄ニ属スル家ノ女カ離婚ニ因リ乙
戸籍吏ノ管轄ニ属スル家ニ復歸スルトキノ如シハ新管轄ノ戸籍吏ハ其者ヲ當
該戸籍ニ記入シタル後身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ヲ
送付スルト同時ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ通知スルコトヲ要ス
然レトモ例ヘハ舊管轄ノ戸籍吏ニ離婚ノ届出ヲ爲シタル場合ハ如キニ在リテ
ハ舊管轄ノ戸籍吏ヨリ新管轄ノ戸籍吏ニ届書ヲ送付スルコトヲ要シ新管轄ノ
戸籍吏ヨリ舊管轄ノ戸籍吏ニ届書ヲ送付スヘキニアラサル戸第三三條參照カ
故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ届書ヲ送付ヲ受ケタル新管轄ノ戸籍吏ハ當該戸籍
ニ記入シタル後單ニ入籍ヲ爲シタル旨ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ通知スルハ足ル(月
第一八八條)

婚姻離婚養子縁組轉籍其他ノ事由ニ因リ一人又ハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキ場合ニ於テ除籍ヲ爲スヘキ者ノ本籍カノ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スルモノナルトキハ舊管轄ノ戸籍吏ハ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル後其通知ノ發送及ヒ受附ノ年月日ヲ戸籍ニ記載シタル前ニ掲ケタル除籍ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一八九條第一項)

(注意) 舊管轄ノ戸籍吏ハ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ノ手續ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル後ニアラサレハ除籍ノ手續ヲ爲スコトヲ得ズ故ニ例ヘハ舊管轄ノ戸籍吏ニ離婚ノ届出ヲ爲シタル場合ニ在リテハ舊管轄ノ戸籍吏ハ身分登記ヲ爲シタル後遲滞ナク其届書ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付シ新管轄ノ戸籍吏ヨリ入籍ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル後始メテ除籍ノ手續ヲ爲スヘキモノトス入籍ノ手續ヲ先ニシ除籍ノ手續ヲ後ニスルハ一日モ無籍者ナカラシメンカ爲メナリ

轉籍ニ因リテ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外轉籍地及ヒ轉籍ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一八九條第二項)

一ノ戸籍吏ノ管轄地内ニ於テ婚姻離婚其他ノ事由ニ因リ一人又ハ數人ヲ家ヨリ他ノ家ニ入リタル爲メ本籍ニ變更アル場合ニ於テハ戸籍吏ハ入籍及ヒ除籍ノ手續ヲ爲セハ足ル

身分登記又ハ戸籍ニ關スル届出ニ基キテ戸籍ノ記載ヲ爲ス場合ニ於テハ本節ニ掲ケタル事項ノ外身分ニ關スル届書其他ノ書類又ハ戸籍ニ關スル届書ノ受附年月日ヲモ記載スルコトヲ要ス(戸第一九〇條)

行政區畫土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキ(例ヘハ甲村ヲ乙村ニ合併シタルトキノ如シ)ハ戸籍ニ記載シタル區畫名稱又ハ番號ハ當然之ヲ改正シタルモノト看做ス(戸第一九三條)故ニ別段ニ其改正ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

戸籍吏カ身分登記ヲ爲シタルトキ又ハ戸籍ニ關スル届出ヲ受理シタルトキハ其身分登記又ハ其戸籍ニ關スル届出ニ基キ戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス隨テ其身分登記又ハ其戸籍ニ關スル届出ニ錯誤又ハ遺漏アリタルトキト雖モ尙ホ之ニ基キ戸籍ノ記載ヲ爲ササルヘカラス然レトモ戸籍吏カ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後其記載中ニ錯誤又ハ遺漏アリタル基本タル身分登記又ハ戸籍ニ關スル届

出ト符合セサルコトヲ發見シタルトキハ裁判所ノ許可其他別段ノ手續ヲ要セ
 スシテ戸籍吏限リ之ヲ訂正シ又ハ追加スルコトヲ得何トナレハ戸籍ノ記載ノ
 變更ニ關シテハ身分登記ノ變更ニ關スル戸籍法第十七條第四十條第六十七
 條乃至第六十九條ノ如キ規定ナケレハナリ
 (三六) 特別 戸籍吏カ或特種ノ身分登記ヲ爲シ又ハ戸籍ニ關スル或特種ノ届
 出ヲ受理シタル場合ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スニ付キ前(三五)ニ掲ケタル手續ノ
 外尙ホ遵守スヘキ特別ノ手續ヲ説明スヘシ
 (三七) 家督相續ノ登記又ハ家督相續回復ノ登記前第二編第四章第十三節參照ヲ爲シ
 タルトキハ其登記及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ基キテ新戸
 主ノ戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス(戸第一七九條第一項)而シテ其戸籍ヲ編製シタ
 ルトキハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ戸籍簿ニ編綴セサルヘカラス(戸第一七一條)
 前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ其事由ヲ記載
 シテ其戸籍全部ヲ抹消シ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ且其戸籍ト新戸主ノ戸籍トニ戸
 籍吏ノ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一七九條第二項第一七三條)

(注意) (イ) 前戸主トハ家督相續ノ登記ニ場合ニ於ケル被相續人ヲ指シ戸主

(ノ名義ヲ有セシ者トハ家督相續回復ノ登記ニ場合ニ於ケル相續權ナクシテ
 家督相續ノ登記ヲ受ケタル者ヲ指ス一八〇)

(ロ) 家督相續又ハ家督相續回復ノ登記ヲ爲シタルトキハ前戸主又ハ戸主ノ
 名義ヲ有セシ者ノ戸籍中其者ニ關スル部分ヲ抹消シ之ニ新戸主ヲ記入スル
 ニアラス其戸籍ノ全部ヲ抹消シ新戸主ノ戸籍ヲ作り之ニ新戸主及ヒ其

前家族ヲ記載スルモノトス要スルニ戸籍ハ戸主ニ變更アル毎ニ改製スヘキモ
 前ナリ

(ハ) 新戸主ノ戸籍ニハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍中既ニ抹消
 セラレタル部分ハ之ヲ轉載スヘキ限ニ在ラス故ニ例ヘハ家督相續ノ登記前
 既ニ死亡ニ因リ除籍セラレタル家族ニ關スル記載ノ如キハ之ヲ新戸主ノ戸
 籍ニ轉載スヘカラス

胎兒カ家督相續人ナル場合ニ於テハ其出生ニ至ルマテ前二項ノ手續ヲ爲スコ
 トヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ノミヲ抹消シ家

管相續人ノ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス戸第一七九條第三項

〔注意〕胎兒ハ家督相續ニ付キテハ既ニ生レタルモノト看做サルト雖モ若シ死體ニテ分娩スルトキハ初ヨリ家督相續ヲ爲サザリシコトト爲ル(民法第九六八條)此ノ如ク胎兒ノ家督相續ハ其胎兒カ生命ヲ保有シテ生ルルト否トニ因リ影響ヲ受クヘキ不確定ノモノナルカ故ニ生命ヲ保有シテ生ルルヲ待チテ新戸籍編製ノ手續ヲ爲サシムヘシ(主ニ民法第九六八條ノ旨ニ依リ)

分家居絶家再興離婚其他新ニ家ヲ立ツヘキ事件ノ登記前第二編第四章第二節、第十六節乃至第十九節參照ヲ爲シ又ハ轉籍若クハ無籍戸主ノ就籍ノ届出ヲ受理シタルトキ(次ノ第四章參照)其登記又ハ届出ニ基キテ戸籍ヲ編製シ轉籍届書ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス此場合ニ於テ戸籍ヲ編製スルニハ戸籍法第七十六條ニ掲ケタル事項ノ外各場合ニ付キ特殊ナル事項ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一八〇條)

〔注意〕各場合ニ付キ特種ナル事項トハ例ヘハ廢絶家再興ノ場合ニ在リテハ其旨及ヒ廢絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名其者ト再興者トノ續柄ヲ記載シ離婚ノ

スル各事件ノ事件ニ付テノ規定ニシテ非訟事件手續法ノ各論トモ稱スヘキモノナリ其適用ノ範圍ハ下ノ如シ一、法人ニ關スル事件 二、財産ノ管理ニ關スル事件 三、裁判上ノ地位ニ關スル事件 四、保存供託保管及ヒ鑑定ニ關スル事件 五、隱居廢家子ノ懲戒家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件 六、相續承認及ヒ拋棄ニ關スル事件 七、遺言ノ確認及ヒ執行 八、法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記 九、會社及ヒ競賣ニ關スル事件 十、會社ノ清算人ノ選任及ヒ解任 十一、商業登記 十二、非訟事件ト訴訟事件トノ差異ハ緒論第一章ニ於テ已ニ之ヲ述ベ且非訟事件ト他ノ行政事件及ヒ刑事事件トノ差異ハ如キヲ茲ニ講述スルハ徒ニ煩雜ニ渡リ實益ナキヲ以テ之ヲ略スルコトトセリ

第五章 非訟事件手續法ノ主義

第一、干涉主義及ヒ不干涉主義

干涉主義トハ事實ノ探知證據調及ヒ必要ナル處分等ハ職權ヲ以テ之ヲ爲スモノニシテ要スルニ當事者ノ辯論ヲ以テ裁判ノ基本ト爲ササルモノヲ云フ不干

涉主義トハ證據方法其他ノ攻撃防禦ノ方法等ハ舉ケテ當事者ニ一任シ裁判所
之ヲ強行セサルヲ云フ民事訴訟法カ不干涉主義ヲ採用スルニ反シ非訟事件手
續法カ干涉主義ニ基キ制定セラレタルコトハ法文上毫モ疑ナシ例之裁判所ハ
職權ヲ以テ私署證書ニ認證ヲ受クヘキ旨ヲ命スルコトヲ得ルカ如キ(第七條事
實ノ探知及ヒ證據調ハ裁判所職權ヲ以テ之ヲ爲ストアルカ如キ(第十一條裁判
所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スル
コトヲ得ルカ如キ(第十九條第一項職權ヲ以テ裁判スルコトヲ得ルカ如キ(第十
九條第二項第二十條第二項第六十一條等其他第十八條第二項第三十六條第四
十條第一項第四十一條第一二項第四十四條等ノ規定ニ照ラシ歷歷之ヲ徵スル
コトヲ得ヘシ然ラハ何カ故ニ民事訴訟ニ於テハ不干涉主義ヲ採用シタルニ拘
ハラス均シク國家ノ私法事務ノ一タル非訟事件ニ於テ干涉主義ヲ採用シタル
ヤト云ヘハ民事訴訟ハ元來私權保護ヲ目的トシ其裁判ノ結果ハ當事者間ニ私
法關係ノ確定ヲ生ス然ルニ私權ハ一私人自ラ之ヲ處分スルコトヲ得ルヲ以テ
通則トスルカ故ニ私權ノ伸長及ヒ防禦ノ方法ニ付テモ成ルヘク當事者ノ意思

ニ一任スルヲ適當ナリト認メ民事訴訟法ニ在リテハ不干涉主義ヲ採用セルナ
リ反之非訟事件ノ目的ハ私權ノ明確ト實行トニ在リ私權ノ所在不明ナルカ爲
メ徒ニ紛爭ヲ是レ事トスルハ獨リ一私人ニ取リテ不利益ナルノミナラス國家
ノ利益ヲ害スルモノナリ又私權ノ實行ノ如キ舉ケテ之ヲ一私人ニ一任スルハ
頗ル危險ナリト謂ハサルヘカラス故ニ非訟事件手続法ニ於テハ公益保護ノ必
要上干涉主義ヲ採用シタルモノナリ

第二 口頭審理主義及ヒ書面審理主義

口頭審理主義トハ裁判所カ當事者證人鑑定人等ト直接ニ口頭ノ交通ニ依リテ
得タル事由ヲ以テ裁判ノ基本ト爲スヲ云ヒ書面審理主義トハ當事者ノ主張ス
ル事實及ヒ證據方法ノ如キハ凡テ書面ヲ以テ裁判所ニ提出シ裁判所ハ其提出
セラレタル書面ニ基キ裁判スルヲ云フ非訟事件手続法ニ於テ口頭審理主義ヲ
採用セザリシコトハ蓋シ疑ナカルヘシ何トナレハ非訟事件手続法ハ前述ヘタ
ル如ク干涉主義ヲ採用シ事實ノ探知證據調等總テ職權ヲ以テ之ヲ爲スモノナ
レハ當事者證人等ノ口頭ノ陳述ヲ以テ裁判ノ基本トスル口頭審理主義トハ其

本質水炭相容レタルモノナリ同法ニ所謂審問トハ口頭ヲ以テ審理スルモノナ
ルモ必スシモ審問ニ依リテ得タル事由ノミヲ以テ裁判セサルヘカヲサルモノ
ニ非サレハナリ既ニ口頭審理ヲ強制セズ然ラハ書面審理主義ヲ採用セルカト
問ハハ直チニ然リト答フル能ハス固ヨリ強制的口頭審理主義ヲ採用セザルヲ
以テ裁判所ハ書面審理ヲ爲シ得ルコトハ疑ナキモ必要ト認メタルトキハ裁判
所ハ當事者ヲ審問スルコトヲ得ルナリ抑モ書面審理主義トハ當事者ノ提出シ
タル書面ニ基キ裁判スルモノナルニ裁判所カ審問ニ依リテ得タル事由ノミヲ
以テ裁判ノ基本トスル場合審問ニ依リテ得タル事由ノミヲ以テ裁判スルト否
トハ裁判所ノ自由ナレハ又ハ職權ヲ以テ裁判スル場合此場合ニハ當事者ノ提
出シタル書面ナル物ナキコトアルヘシニハ其裁判ハ書面ニ基キタルモノト謂
フヲ得ス是レ一概ニ書面審理主義ヲ採用シタリト答フル能ハサル所以ナリ斯
ノ如ク非訟事件手續法ノ審理主義ハ嚴格ナル意義ニ於ケル強制的口頭審理ニ
モ非ス又強制的書面審理ニモ非ス其性質恰モ民事訴訟法ニ所謂審訊ニ異ナラ
サルヲ以テ余輩ハ非訟事件手續法ノ審理主義ヲ稱シテ審訊主義若クハ自由主

義ト謂ハント欲スルモノナリ
第三 密行主義及ヒ公行主義
密行主義トハ事件ニ關係ナキ第三者ヲシテ辨濟ヲ聽聞セシメサルヲ云ヒ公行
主義トハ事件ニ關係ナキ第三者ヲシテ總ノ辯論ヲ聽聞セシムルヲ云フ民事訴
訟法カ主トシテ公行主義ヲ採用セルニ反シ非訟事件手續法ニ於テハ密行主義
ヲ原則トス唯裁判所カ相當ト認ムル者ニ限り傍聽ヲ許スコトヲ得ルノミ(第十
三條)彼ニ在リテハ公開ヲ停メタル場合ニ於テモ判決ハ必ズ公開ノ上言渡ササ
ルヘカラス此ニ在リテハ裁判ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ爲スコト
ヲ得ルナリ(第十八條第二項)
公行ハ公平ヲ維持スル方法ナリ民事訴訟法カ此主義ヲ採用セル所以ハ審理及
ヒ裁判ヲ公衆ノ面前ニ於テ爲ストキハ裁判官又ハ當事者ニ私曲ノ行ハレルコ
ト尠キヲ以テナリ然ルニ非訟事件手續法ニ於テ密行主義ヲ採用セル所以ハ(二)
非訟事件ニ於テハ手續ノ簡易迅速ヲ主義トスルカ爲メニ密行主義ヲ採用シタ
ルモノナリ公行主義ヲ採用スルトモハ事件ノ終了ヲ遅延セシムル恐ナリ(二)非

訴訟事件手續法ニ於テハ自由審理主義ヲ採用スルモ主トシテ書面ニ基キ審理裁判スル場合多キヲ以テ公行主義ヲ原則トスル能ハス(三)非訟事件ノ目的ハ私法關係ノ明確ト實行ニ在ルヲ以テ其裁判ハ當事者間ニ私法關係ヲ確定シ生ズルモノニ非ス從テ當事者ノ實體法上ノ權利ニ何等ノ利害關係ヲ及ボササルカ故ニ裁判官又ハ當事者ニ私曲ノ行ハルル憂渺シ(四)民事訴訟ハ私法ノ正當ナル實行ニ在ルヲ以テ原告カ勝利ヲ得ルモ被告カ勝利スルモ國家ハ之ニ對シ何等ノ利害關係ナキヲ以テ殊更ニ秘密ヲ要スヘキ理由存セザルモ非訟事件ハ裁判所ニ依リテ行フ一ノ行政手段ニ過キス故ニ他ノ行政手段ト同ク之ヲ公行スルトキハ爲メニ國家及ヒ一私人ニ不利益ヲ來スコト計カラサレハナリ(五)以上ハ非訟事件手續法ノ根本ノ主義ナルモ尙民事訴訟法ト比照シ重要ナル主義ヲ列舉セシニ民事訴訟法ニ於テハ判決ヲ爲スニ當事者雙方ノ陳述ヲ聞カサルヘカラス然ルニ非訟事件手續法ニハ申立人アルモ相手方ナクハ固ヨリ當事者雙方ノ陳述ヲ聞ク能ハス彼ノ所謂審問ナルモノハ裁判所カ事實探知ノ一方法ニ過キスシテ必要條件ニ非サルナリ而モ相手方ヲ定メテ審問ヲ開始スル

場合ニ於テモ當事者ノ陳述ニ依ラシテ他ノ事由ニ基キ判斷スルコトヲ得ヘキカ故ニ片言獄ヲ斷セストノ古來ノ格言ハ非訟事件手續法ニハ適用スヘカナルナリ

時間勞力及ヒ費用ヲ節スルハ特ニ非訟事件手續法ニテ採用スル主義ノミナラス總ノ訴訟手續法ニ通スル大主義ナリトス然レトモ民事訴訟ニ在リテハ直チニ當事者間ノ私法關係ヲ確定スルモノナルヲ以テ慎重ナル審理ヲ要シ從テ詳細ナル手續ノ規定ナカルヘカラス非訟事件ニ於テハ私權ノ明確ト實行ニ在ルヲ以テ成ルヘク手續ノ簡易ト迅速トヲ要ス從テ時間費用等ヲ節スルハ民事訴訟等ニ比シ一層切ナリト謂ハサルヘカラス例之申立及ヒ陳述ハ一般ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルカ如キ(第八條)證人又ハ鑑定人ノ訊問ノ外原則トシテ圖書ヲ作ラシメサルカ如キ(第十四條)裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スカ如キ第十七條第一項而テ抗告裁判所ノ裁判ノ外決定ニハ必スシモ理由ヲ附スルヲ要セサルカ如キ明文ナシト雖モ第二十三條ヨリ推論スルコトヲ得ヘシ其他第十一條、第十八條第二項、第十九條第一、二項等皆此大主義ニ基キタルモノトス

第六章 非訟事件手續法ノ參考書

- (一) 教科書 即チ理論的ニ編制シタルモノヲ云フ余輩寡聞未タ斯ノ如キ一著書アルヲ知ラス
- (二) 註釋書 即チ逐條解釋ヲ云フ我國ニ於テ此種ノ著書スラアルヤ否ヤ疑ハ然レトモ見ルニ足ルヘキ好著ナキハ余輩之ヲ斷言スルコトヲ得ヘシ獨逸ニ於テハ非訟事件手續法發布セラレテヨリ未タ五年ヲ經過セサルモ註釋書ノ出版ハ實ニ枚舉ニ暇アラヌ故ニ余輩力良著ト思料スル二三ヲ指示セ
- Frank, Bernh. v. K. Y. K. 氏等ノ非訟事件手續法註釋及ヒ獨逸
Fuchs, Josef, Reuschitz, Wengler, Justrow
- (三) 論說 我國ニハ未タ非訟事件ニ關シ學者ノ論文アルヲ聞カス獨逸ニ於テハシムルチニスタイン氏ノ民事訴訟法附非訟事件手續法雜誌又ハ非訟事件手續法及ヒ公證人雜誌ニ毎號掲載アラサキ此等ノハヨク

雜 報

○町村收入役ノ事務管理 町村制第百十條第二項ニ依レハ町村ノ收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得サルノミナラス縱令町村長ノ命令アルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得サルモノトス今町村ノ收入役カ此規定ニ依ラスシテ自己ノ隨意ニ町村ノ債務ヲ履行シタルトキハ本條ニ違背セル行爲トシテ之ヲ無効トスヘキカ將タ民法ノ規定第三編第三章ニ從ヒ事務管理ヲ爲シタルモノトスヘキカ大審院ハイ(公法人ナルカ故ニ被管理者タルコトヲ得サルニ非ス)收入役ノ職ニ在ルカ故ニ民法上事務管理者タルコトヲ得サルニ非スト爲シ説明シテ曰ク(町村制第百十條第二項ハ收入役カ其職務ヲ行フニ付キ遵守スヘキ規定ナルニ因リ收入役ノ職ニ在ル者ト雖モ其實格ヲ以テセス個人タル資格ニ於テ町村ノ事務管理ヲ爲シタル場合ノ準則タラサルコトハ勿論トス今本件被上告人ノ請求ノ趣旨ヲ考查スルニ被上告人ハ第二審ニ至

リ第一審ニ於テ陳述セル其請求ノ原因タル事實ヲ釋明シテ單ニ上告村ノ村費ヲ立替ヘ事務管理ヲ爲シタルモノナリト主張セルコトハ原審ノ口頭辯論調書及ヒ原判決文中事實記載ノ部ニ摘示スル如クナルヲ以テ被上告人ハ收入役タル職務上契約ニ依リ村ノ立替ヲ爲シタリト主張シテ本訴請求ヲ爲ス者ニ非ズシテ個人トシテ村ノ事務管理ヲ爲シ立替タル金錢ノ返済ヲ求ムル場合ナルコト明ナリト謂フヘシ故ニ町村制第一百條第二項ハ本件ニ付キ決スヘキ争點ニハ何等ノ關係ヲ有セス事口町村ノ如キ公法人モ亦民法事務管理ノ規定ニ依リ其事務ノ本人タルヘキヤ否ノ問題ヲ決セサルヘカラス蓋シ民法ハ私法法律關係ニ付キ一般ノ準則ヲ示スモノナルヲ以テ別段ノ定メナキ限りハ其法律關係ノ主體ノ如何ナル人ナルヤヲ問ハス一般ニ適用スヘキモノナレハ公法人ナル事由ハ未タ以テ民法ノ規定ヲ除外スルニ足ラサルナリ而シテ民法上事務管理ニ關スル規定ハ公法ニ適用スヘカラサル旨ノ規定ナキノミナラス町村制ニ照スモ亦此規定ヲ除外シタリト認ムヘキモノナシ其第三十三條第八號ノ如キ原院モ説明シタル如ク法律ノ規定上生スヘキ債務ニハ何等ノ關係ナキヲ以テ

本訴ノ當否ヲ決スル準則トスヘカラス又其第六條ノ如キ町村カ公債ヲ募集スル場合ノ規定ヲ示シタルモノニ過キス町村ハ公債ノ外債務ヲ負フコトナシト云フニ非ス同第九條ノ如キ町村ノ財務ハ特ニ町村會ノ認可ヲ受クルコトヲ要スル旨ヲ明ニシタルニ止リ民法ノ規定ニ從フヘキ事務管理ニ因ル債務ハ町村モ負擔スヘキモノナルヤ否ニ至ツテハ同制規定中何等ノ定メナシ蓋シ一般民法ノ規定ニ依レハ事務管理アル場合ノ債務關係ヲ律スルニ足ルヲ以テナリ抑事務管理ニ關スル債務ハ其事務ノ本人ノ意思ニ拘ハラズ事務管理ナル事實ニ因リ法律ノ規定上當然生スヘキモノナルヲ以テ本人ハ行爲能力者タルコトヲ要セス若シ町村カ本人ナルトキハ其町村長ノ同意ヲ要セサルハ勿論町村會ノ決議ヲ埃ツテ發生スヘキ債務ニ非タルヤ明白ナリトス而シテ町村ノ收入役ハ町村制ノ規定ニ從ヒ其規定ノ範圍内ニ於テ收支ノ取扱ヲ爲スヘキ吏員ナルヲ以テ町村制ニ關係ナキ民法上ノ事務管理ヲ爲ストキハ純然タル個人ニシテ收入役ニ非ス故ニ收入役ナル資格ヲ有スルコトハ民法上事務管理者タル妨ト爲ルコトナシト

○誤記投票ノ效力 多數ノ選舉者中ニハ或ハ全ク自己ノ選舉セント欲スル人名ヲ書スルコト能ハサル者アリ又不注意ノ爲メニ誤字脱字等ヲ生スルコトアリ是ニ於テカ裁判官タル者ハ成ルヘク有效ニ解シ以テ一般人ニ満足ヲ與フルハ甚タ望マシキコトナレトモ極端ニ走スルモ亦慎マサルヘカラサルコトタリ此點ニ付キ前號所載雜報三〇頁ノ事實ニ比シ一層極端ニ近キ判決ヲ紹介セシニ行政裁判所ハ或村會議員ノ選舉ニ於テ佐々木治郎兵衛ナル者ノ得票ナリトシテ佐々木重郎兵衛(佐々木治兵衛)ナル投票ヲ有效ト認定シタリ其理由トスル所ハ(一)該村公民中右ノ如キ氏名ナキコト(二)同選舉ニ於テ多數ノ投票ヲ得タル佐々木治郎兵衛ノ氏名ト語音相近キコト(三)同村公民中佐々木治郎平ナル者アルモ字畫ヨリ觀ルトキハ佐々木治郎兵衛ノ爲メニシタルモノナルコトヲ知リ難カラスト云フニ在リ(行政裁判所明治三十六年第九十四號不宣告第一號)

(注 意) 校外生月謝納付ノ際ハ必ス本紙ヲ切放キ居所、氏名及爲替番號、金額、並ニ月謝ノ月別若クハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替券ニ添附スルモノトス

納 付 書

爲替番號 ()

一金

但三十六年度特別法

月分月謝

右納付候也

居所

明治三十六年
月 日
法政大學會計局御中

納 付 書

爲替番號 ()

一金

但三十六年度特別法

月分月謝

右納付候也

居所

明治三十六年
月 日
法政大學會計局御中

